

東洋大学学術情報リポジトリ Toyo University Repository for Academic Resources

論文以外のコンテンツ

雑誌名	国際哲学研究
号	2
発行年	2013-03
URL	http://id.nii.ac.jp/1060/00005285/

国際哲学 研究

2号

*Journal of
International Philosophy No.2*

Toyo University
125th
Anniversary

東洋大学国際哲学研究センター編

*Edited & Published by International Research Center for Philosophy,
Toyo University*

はじめに

What should we do next?

東洋大学 国際哲学研究センター長
村上勝三

国際哲学研究センターの設立2年目になる2012年度には、東洋大学創立125周年を記念したさまざまな事業が行われました。それに呼応して本センターにとっても豊饒と発展の年でした。人員としては、同年12月現在の研究員、客員研究員、研究助手、リサーチアシスタント合わせて総勢50名に至りました。事業形態という観点からみますと、三つのユニットで今年度に行われた研究会は総計20回ほど（そのうちの1回はWEB会議）、海外での研究集会は2回（フランスとブータン）、国際シンポジウムは4回（そのうちの1回はWEB会議）、国際円了学会の設立大会、その他にワークショップも行われました。国外の研究者も20名ほどが参加しました。使われた言語は英語、フランス語、ドイツ語、中国語、ペルシャ語でした。

設立の趣旨を私たちは次のように掲げておりました。「グローバル化が進み、価値観の多様化とともに、未来への方向性を見極めかねている現代社会にあって、人間と社会のあり方を根源的に問い直す哲学的探究が求められています。本センターはこの地球的課題に応えるために哲学研究の国際的ネットワークを形成し、井上円了哲学の現代的役割を国際的に発信するとともに、東西思想の差異するところを踏まえつつ世界的連携を創出することを目指します」。

多くの方々のご支援を得て、この目的に近づくために今年度は大きな道筋を付けることができましたと考えます。本年度9月には、東洋大学創立125周年記念事業の一環として、第1ユニットは国際井上円了学会を創設しました。それとともにセンター全体として国際シンポジウム「グローバルな現実に向きあう哲学」がインド、中国、アメリカ、フランスの研究者を招いて開催されました。第1ユニットの活動である国際井上円了学会は将来にわたって円了研究の世界的拠点として育て拡充されるべき事業です。2012年12月現在既に（団体も含めて）93の会員を数えております。さらに、第1ユニットはこの活動を成功裡に導くための基礎研究として明治期以降の日本哲学の研究活動を続けております。この一環としてストラスブール大学日本学学科マスターコースへのWEBを用いた授業配信も致しました。第2ユニットの活動の中心は方法論研究とそれの実践にあります。方法論研究としてはパリとウィーンと東京を結んだWEB会議、実践への取り組みとしては、「法」概念の世界的多様性を掴み取ることをめざすシンポジウム、さらに「ポスト福島哲学」の構築に向けての研究会を開催しました。第3ユニットは「共生」に向けての多方面からの接近を行っております。ブータンにおける国際会議の開催、イラン・シンポジウムが今年度の大きな企画でした。後者は「共生の哲学に向けて－イスラームとの対話－」を主題として、駐日イラン大使の臨席の下で行われました。これら二つの活動は、これまでの「共生」の枠を明確に一步踏み出したものとして高く評価されます。イランの研究者との交流は今後とも継続され、第3ユニットの活動の軸になると期待されます。こうして三つのユニットがそれぞれ独創的な取り組みを行い、協力し合いながら人類的に共有可能である知の基盤を打ち立てるために、「発信」と「方法の国際化」と「共生」が一つになる場の確立に向けて尽力しております。

来年度は折り返し点である3年目になります。及ばぬ点を明確にし、同時に実りを実りとして収穫しながら、言い換えますならば、反省の上に充実を求めて尽力を続けてまいります。今後とも皆様方のあつのご支援をお願い申し上げます。

目 次

はじめに What should we do next ?	村上 勝三
東洋大学創立 125 周年記念国際シンポジウム 「グローバルな現実に向きあう哲学」	7
趣旨	村上 勝三 9
ジャイナ教における非暴力の哲学的正当化	ジャヤンドラ・ソーニー 10
徳川日本の心学運動における中国的要素——「儒学の日本化」と兼ねて	呉 震 16
グローバリゼーションの時代における人間の条件	エティエンヌ・タッサン 20
アメリカに浸透する仏教—その現状と意義	ケネス・田中 29
WEB 国際会議「哲学の方法としての直観と反省」	33
直観と反省をめぐる—西田とフッサール—	山口 一郎 35
行為的直観と自覚—諸科学の方法の基礎と哲学の方法—	黒田 昭信 44
「超反省」に対するいくつかの反省	ジョスラン・ブノワ 49
コメント	ゲオルグ・シュテンガー 53
コメント	村上 勝三 64
ワークショップ「西田幾多郎の宗教哲学 キリスト教と仏教の立場から」	67
西田幾多郎における中国仏教について	ゲレオン・コプフ 69
西田哲学とキリスト教—愛の概念の展開として	石井砂母垂 74
西田哲学と宗教哲学	小坂 国継 85
研究調査報告「ブータンにおける多文化共生研究プロジェクト」	91
ブータンにおける多文化共生研究プロジェクト	宮本 久義 93
ブータンのロ・ドゥク（南の雷龍）伝統	ゲンボ・ドルジ 95
スピリチュアリティと幸福	ゲンボ・ドルジ 99
論文	103
自覚の事実とその展開—後期西田哲学における自覚の問題—	白井 雅人 105
自然の歴史化—英国の環境芸術における narrative なもの—	伊東多佳子 113
アンセルムスの思想における「共生」	矢内 義顕 127
プラセボ効果は心身因果関係の理解を変えるか	石田 安実 139
訳注	151
『釈軌論』第2章経節（62）-（63）訳注—多文化共生の基盤の構築に向けての「法を説き・法を聞く」こと—	堀内 俊郎 153
書評	165
フランスにおけるギュンター・アンダーズ	渡名喜庸哲 167

彙報

東洋大学国際哲学研究センター 2012 年度研究成果概要（2013 年 1 月 1 日現在） 171
投稿規程 183

Journal of International Philosophy

The Table of Contents

Foreword: What Should We Do Next?	Murakami Katsuzo·····	187
International Symposium to Commemorate the 125th Anniversary of the Foundation of Toyo University: “Philosophy Facing A Globalized World”	·····	189
Prospectus	Murakami Katsuzo·····	191
Philosophical Justification of Non-Violence in Jainism	Jayandra Soni·····	192
徳川日本心學運動中の中國因素——兼談“儒學日本化”	Wu Zhen·····	198
La Condition humaine au Temps de la Globalisation	Etienne Tassin·····	202
The Penetration of Buddhism in America: Its Reality and Significance	Kenneth Tanaka·····	211
International Web Meeting of the 2nd Unit: “Intuition and Reflection as Method of Philosophy”	·····	215
Zur Anschauung und Reflexion bei Nishida und Husserl	Yamaguchi Ichiro·····	217
L'intuition agissante et l'auto-éveil — Fondement des méthodes des sciences et méthode de la philosophie —	Kuroda Akinobu·····	228
Quelques Réflexions sur La “surréflexion”	Jocelyn Benoist·····	234
Intuitive evidence and formal evidence in proof-formation	Okada Mitsuhiro·····	238
Kommentar und Fragen	Georg Stenger·····	246
Remarques sur l'exposé de M. Okada	Murakami Katsuzo·····	258
Workshop of the 1st Unit: “Nishida Kitaro’s Philosophy of Religion : from the standpoints of Christianity and Buddhism”	·····	261
西田几多郎思想中的中国佛教	Gereon Kopf·····	263
Nishida’s Philosophy and Christianity—Explication from the Concept of Love	Ishii Samoa·····	267
Nishida’s Philosophy and Religious Philosophy	Kosaka Kunitsugu·····	281
Research Report of the 3rd Unit: Project on the Study of Harmonious Multicultural Coexistence in Bhutan	·····	289
Project on the Study of Harmonious Multicultural Coexistence in Bhutan	Miyamoto Hisayoshi·····	291
The Lho-Druk Tradition of Bhutan	Gembo Dorji·····	294
Spirituality & Happiness	Gembo Dorji·····	298
Articles	·····	301
The Fact of Self-Awareness and Its Development: The Question of Self-Awareness in the Later Nishida	Shirai Masato·····	303
Historization of Nature- Narrative of British Environmental Art	Itoh Takako·····	313
Anselm’s Ideas on “Coexistence”	Yauchi Yoshiaki·····	327
Does the Placebo Effect Change Our Understanding of the Causal Relationship between Mind and Body?	Ishida Yasushi·····	339

Translation	353
An Annotated Translation of Sūtra Passages 62 & 63 in Chapter 2 of the <i>Vyākhyāyukti</i> : “Speaking and Listening”		
as Means towards the Construction of a Basis for Multicultural Coexistence	Horiuchi Toshio.....	355
Book Review	369
Günther Anders en France: Recension de deux revues destinée au public japonais		
Tonaki Yotetsu.....		371
Center News		
Summary of Research Results Produced by the International Research Center for Philosophy, Toyo University,		
for the 2012 Academic Year (as of 1 January 2013)	375

東洋大学国際哲学研究センター 2012 年度研究成果概要 (2013 年 1 月 1 日現在)

研究プロジェクトの概要及び研究組織

概要

国際哲学研究センター（IRCP）は 2011 年 5 月末に「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」として採択され 7 月 1 日に正式に発足しました。その趣旨として私たちは以下のことを掲げております。

「グローバル化が進み、価値観の多様化とともに、未来への方向性を見極めかねている現代社会にあって、人間と社会のあり方を根源的に問い直す哲学的探究が求められています。本センターはこの地球的課題に応えるために哲学研究の国際的ネットワークを形成し、井上円了哲学の現代的役割を国際的に発信するとともに、東西思想の差異するところを踏まえつつ世界的連携を創出することを目指します。」

そして次の三つのユニットをつくりました。

- ① 第 1 ユニットは、明治以降の日本思想、特に本学の創立者である井上円了の哲学を全世界的に発信します。そのために円了哲学を深めるとともに国際井上円了学会の設立に向けての研究事業を推進します。
- ② 第 2 ユニットは、三つのユニットを理論的かつ実践的な手立てで方法論的に支えけるとともに、世界的に共有可能な諸学の基盤をなす新たな「普遍的方法論」の構築を目指します。実践的課題としては「ポスト福島哲学」を設定しております。
- ③ 第 3 ユニットは、不安定な相対主義とその裏腹である一極主義の浸透により争乱と混乱のうちにある現代社会に対して「共生」を鍵に東洋的思想の特質を積極的に取りだしつつ、単なる多様性（variety）ではなく別個性（diversity）を乗り越える新しい世界観を提示すべく努めます。

本センターのあゆみ

- 2012 年 4 月 23 日 第 2 ユニット 第 1 回研究会：村上勝三「デカルト形而上学の方法としての「省察 meditation」について」
- 4 月 25 日 第 2 回総会
- 5 月 ニューズレター（日・英）Vol. 3 刊行
- 5 月 23 日 第 3 ユニット 第 1 回研究会：バフマン・ザキプール「大乘仏教とイラン人との関係 ―パルティア人から黎明の叡智へ―」
- 6 月 27 日 第 1 ユニット 第 1 回研究会：村山保史「明治期の東京大学における外国人哲学教師」
- 6 月 30 日 国際井上円了学会 アルザス研究集会「井上円了とその時代」
- 7 月 4 日 第 3 ユニット 第 2 回研究会：宮本万里「ブータン——「幸福社会」という国づくり」
- 7 月 4 日 第 2 ユニット 第 1 回「ポスト福島哲学」講演会：ジャン＝ピエール・デュピュイ「破局的な状況を前にした合理的選択」、一ノ瀬正樹「放射能問題の被害性——哲学は復興に向けて何を語れるか」
- 7 月 9 日 第 2 ユニット 出張報告会：山口一郎「ドイツにおける「価値」と「学問」を巡る諸問題」
- 7 月 11 日 第 1 ユニット ワークショップ「西田幾多郎の宗教哲学 ―キリスト教と仏教の立場から―」
- 7 月 27 日 第 1 ユニット 第 2 回研究会：相楽勉「哲学導入期の「実在」問題」
- 8 月 24 日～30 日 第 3 ユニット ブータンにおける多文化共生研究集会・現地調査研究集会・現地調査
- 9 月 13 日 第 1 ユニット 第 3 回研究会：呉震「近世日本における中国善書の流伝およびその影響―中江

藤樹の宗教観を中心に―

- 9月15日 国際井上円了学会設立大会・記念講演・公開シンポジウム
- 9月16日 東洋大学創立125周年記念国際シンポジウム「グローバルな現実に立ちむかう哲学」
- 9月22日 第2ユニット 第2回「ポスト福島哲学」講演会：エティエンヌ・タッサン「フクシマは今エコロジック危機の政治哲学についての12の提言」
- 10月3日 第3ユニット 第3回研究会：ジャヤンドラ・ソーニー「インド哲学史におけるいくつかの観点の間文化的な妥当性」
- 10月6日 第2ユニット 第3回「ポスト福島哲学」講演会：吉野裕之・木田裕子・疋田香澄「避難者支援をめぐる」
- 10月13日 第2ユニット WEB国際会議「哲学の方法としての直観と反省」
- 10月19日 第2ユニット 第4回「ポスト福島哲学」講演会：鎌仲ひとみ「『内部被ばくを生き抜く』をめぐる」
- 10月25日 第3ユニット 第4回研究会：矢内義顕「アンセルムスの思想における『共生』」
- 10月31日 第3ユニット 第5回研究会：石田安実「ブラシーボ効果から見た心身関係」
- 10月31日 第1ユニット 第4回研究会：岩井昌悟「日本をどう考えるのか―井上円了の忠と孝―」
- 11月 ニュースレター（日・英）Vol.4刊行
- 11月6日 国際シンポジウム「共生の哲学に向けて―イスラームとの対話―」
- 11月10日 共催シンポジウム 第3回宗教と環境シンポジウム「新しい文明原理の生活化と宗教Ⅱ」（宗教・研究者エコイニシアティブ主催、於天理大学）
- 11月14日 第1ユニット WEB国際講演会：吉田公平「日本近代における漢学と西学―中江兆民を中心に―」
- 11月22日 第3ユニット 研究報告会：宮本久義・堀内俊郎・三澤祐嗣「ブータンにおける多文化共生研究集会・現地調査」報告会
- 11月28日 第1ユニット 第5回研究会：佐藤厚「井上円了における伝統仏教教学体系と仏教・哲学一致論」
- 12月7日 第1ユニット 第6回研究会：井上克人「明治の哲学界：有機体の哲学とその系譜」
- 12月13日 第1ユニット 第7回研究会：呉光輝「中国における日本近代哲学研究の現状」
- 12月15日 シンポジウム「〈法〉概念の時間と空間―〈法〉の多様性とその可能性を探る」
- 2013年3月12日 第2ユニット 第5回「ポスト福島哲学」講演会：高橋哲哉・村上勝三
- 3月14日 第1ユニット 第8回研究会：小坂国継
- 3月28日 第3ユニット 第6回研究会：末永恵子・松島哲久
- 3月 『国際哲学研究』2号刊行
- 3月 『国際哲学研究』別冊1「ポスト福島哲学」刊行
- 3月 『国際哲学研究』別冊2「〈法〉概念の時間と空間―〈法〉の多様性とその可能性を探る」刊行
- 3月 ニュースレター（日・英）Vol.5刊行

研究組織

研究員・研究助手・RA

【第1ユニット】

竹村牧男、吉田公平、相楽勉☆、小路口聡◎、岩井昌悟○、伊吹敦、三浦節夫

【第2ユニット】

村上勝三★、山口一郎◎、野間信幸、沼田一郎○、坂井多穂子、清水高志、大野岳史

【第3ユニット】

宮本久義☆◎、長島隆○、永井晋○、山口しのぶ、橋本泰元、渡辺章悟、朝倉輝一、菊地章太、曾田長人
(★=センター長 ☆=副センター長 ◎=プロジェクトリーダー ○=副プロジェクトリーダー)

【研究助手】

白井雅人、渡名喜庸哲、堀内俊郎

【プロジェクト・リサーチ・アシスタント】

播本崇史、竹中久留美、三澤祐嗣

客員研究員 (50 音順)

伊東多佳子 (富山大学芸術文化学部准教授)、稲垣論 (東洋大学・立教大学非常勤講師)、井上忠男 (日本赤十字秋田看護大学教授)、大西克智 (埼玉大学・東京藝術大学・神奈川大学非常勤講師)、小野純一 (ベルギー・ゲント大学臨時講師、東京大学大学院)、黒田昭信 (セルジー・ポントワーズ大学准教授)、ケネス・田中 (武蔵野大学教授)、小坂国継 (日本大学大学院総合社会情報研究科教授)、呉震 (復旦大学哲学学院教授)、コプフ・ゲレオン (ルーター大学准教授)、斎藤明 (東京大学大学院人文社会系研究科教授)、佐藤厚 (東洋大学他非常勤講師)、ジェームズ・バスキンド (九州工業大学准教授)、武内大 (東洋大学非常勤講師)、バイカル (桜美林大学人文学系リベラルアーツ学群専任准教授)、パフマン・ザキプール (世界宗教研究センター、Moasese-ye Marefat wa Pajuhesh (イラン) 講師、大正大学大学院在籍)、フレデリック・ジラル (フランス極東学院教授)、村松聡 (早稲田大学文学学術院准教授)、山内廣隆 (広島大学教授)、ライナ・シュルツァ (井上円了研究センター客員研究員)、渡辺博之 (東洋大学非常勤講師)

評価委員 (50 音順)

浅野清 (東洋大学経済学部教授)
岡崎久彦 (元駐タイ大使)
クラウス・リーゼンフーバー (上智大学名誉教授)
清水博 (東京大学名誉教授)
高山守 (東京大学人文社会系研究科教授)

研究成果の概要 (2013 年 1 月 1 日現在。それ以降のものは予定)

【シンポジウム】

1. 東洋大学創立 125 周年記念国際シンポジウム「グローバルな現実に立ちむかう哲学」(東洋大学白山キャンパス 2 号館 16 階スカイホール、2012 年 9 月 16 日)
開会の挨拶: 村上勝三 (国際哲学研究センター (IRCP))
学長挨拶: 竹村牧男 (東洋大学学長、IRCP)
ジャヤンドラ・ソーニー (インスブルック大学) 「ジャイナ教における非暴力の哲学的正当化」
呉震 (復旦大学、IRCP 客員研究員) 「徳川日本の心学運動における中国的要素について」
エティエンヌ・タッサン (パリ第七大学) 「グローバリゼーションの時代における人間の条件」
ケネス田中 (武蔵野大学、IRCP 客員研究員) 「アメリカに浸透する仏教—その現状と意義」
コメンテーターより問題提起: 村上勝三
総合討論 司会: 山口一郎 (IRCP)
閉会の挨拶: 宮本久義 (IRCP)
2. 国際シンポジウム「共生の哲学に向けて—イスラームとの対話—」(東洋大学白山キャンパス 2 号館 16 階スカイホール、2012 年 11 月 6 日)

開会の辞：宮本久義

アブドッラヒーム・ギャヴァーヒー（世界宗教センター）「イスラームと神道の対話：文化的理解と協力のために」

森瑞枝（国学院大学）「本居宣長の「漢意」批判について」

ダヴード・フェイラーヒー（テヘラン大学）「現代イスラーム：御言葉と学問の間」

黒田壽郎「イスラームと共存の可能性—仏教との比較の観点から」

ビジャン・アブドルカリミー（イラン・イスラーム自由大学）「比較哲学の重要性と必要性」

鎌田繁（東京大学）「他者との共生とイスラーム」

ハッサン・サイド＝アラブ（Encyclopedia Islamica Foundation）「コルバンとスフラワルディー：イラン・イスラームと現代哲学との対話」

小野純一（IRCP 客員研究員）「スフラワルディー：純粹現象としての東洋」

ビジャン・アブドルカリミー「ハイデガーに触発されたアンリ・コルバンの洞察」

永井晋（IRCP）「アンリ・コルバンの現象学」

全体への質疑応答 チェアー：永井晋

閉会の辞：永井晋

3. シンポジウム「〈法〉概念の時間と空間——〈法〉の多様性とその可能性を探る」（東洋大学白山キャンパス 6 号館 2 階 6217 教室、2012 年 12 月 15 日）

開会の辞：山口一郎

趣旨説明：沼田一郎（IRCP）

鈴木賢（北海道大学）「中国的法概念の特殊性について——非ルールの法、政治用具性をめぐって」

沼田一郎「古代インドにおける倫理と社会規範——ダルマ（dharma）と〈法〉概念の接点」

堀井聡江（桜美林大学）「イスラームにおける法の概念」

堀内俊郎（IRCP）「仏教における法概念の多様性—思想史的観点から—」

葛西康徳（東京大学）「古代ギリシアにおける法（Nomos）の概念について——とくに立法および立法者に焦点を合わせて」

総合討論 司会：山口一郎

【国際講演会・国際会議】

1. WEB 国際会議「哲学の方法としての直観と反省」（東洋大学白山キャンパス 5 号館 4 階特別会議室、2012 年 10 月 13 日）

山口一郎「直観と反省をめぐって——西田とフッサール」

黒田昭信（セルジー・ポントワーズ大学）「行為的直観と自覚——諸科学の方法の基礎と哲学の方法」

ジョスラン・ブノワ（パリ第 1 大学）「「超反省」に対するいくつかの反省」

岡田光弘（慶應義塾大学）「論証形成における直観的明証性と形式的明証性」

コメンテーター：ゲオルグ・シュテンガー（ウィーン大学）

司会：村上勝三

2. WEB 国際講演会（東洋大学白山キャンパス 5 号館 4 階特別会議室、2012 年 11 月 14 日）

吉田公平（IRCP）「日本近代における漢学と西学：中江兆民を中心に」

【ワークショップ】

1. 第 1 ユニット ワークショップ「西田幾多郎の宗教哲学—キリスト教と仏教の立場から」（東洋大学白山キャンパス 5 号館 2 階 5201 教室、2012 年 7 月 11 日）

ゲレオン・コプフ（Luther 大学、IRCP 客員研究員）「西田幾多郎における中国仏教について」
石井砂母亜（ルーテル学院大学）「西田哲学とキリスト教—愛の概念の展開として」
小坂国継（日本大学）「西田哲学と宗教哲学」

【発行物】

1. 『国際哲学研究』（2013 年 3 月刊行）

2. 『国際哲学研究』 別冊 1 「ポスト福島哲学」（2013 年 3 月刊行）

目次

はじめに（村上勝三）

ジャン＝ピエール・デュビュイ「極端な出来事に直面しての合理的選択」

一ノ瀬正樹「放射能問題の被害性——哲学は復興に向けて何を語れるか——」

エティエンヌ・タッサン「フクシマは今——エコロジック危機の政治哲学のための 12 の注記——」

吉野裕之「福島の現状——保養の必要性——」

木田裕子「希望をつなぐ」

疋田香澄「当事者の多様な判断と選択を尊重する支援」

鎌仲ひとみ「『内部被ばくを生き抜く』をめぐって」

3. 『国際哲学研究』 別冊 2 「〈法〉概念の時間と空間——〈法〉の多様性とその可能性を探る」（2013 年 3 月刊行）

目次

はじめに（沼田一郎）

鈴木賢「中国的法概念の特殊性について——非ルールの法のゆくえをめぐって——」

沼田一郎「古代インドにおける倫理と社会規範——ダルマと〈法〉概念の接点——」

堀井聡江「イスラームにおける法の概念——中東を中心に——」

堀内俊郎「仏教における法概念の多様性——思想史的観点から——」

葛西康徳「古代ギリシアにおける法（nomos）の概念について——とくに「立法」および「立法者」に焦点をあわせて——」

国際井上円了学会

【概要】

趣旨

日本が近代国家の体制を模索し始めた明治初期、井上円了という一人の優れた哲学者・教育者が現れました。彼は日本の哲学研究の礎を築き、哲学教育に基づく人材育成のための学校・「私立哲学館」を開き、また全国を奔走して一般民衆の知性の開発に尽力するなど、生涯にわたり広く教育事業に挺身した人でした。さらに井上円了は哲学関係を初めとする膨大な著作を残すなど、多彩な業績を認めることができます。

日本の近代化の初期にあつて、三度の海外視察をふまえ、哲学という観点から民衆の教育と社会の改革・改良に大きな役割を果たし、その後の日本の行方に少なからぬ影響を与えた一人の人間の足跡は、今日、あらためて深く顧みられてよいでしょう。

「私立哲学館」を継承した東洋大学では、2011 年度、国際哲学研究センターを設立し、国際的な連携のもとに井上円了に関する研究を強力に推進することにしました。このことにともない、「国際井上円了学会」を立ち上げ、定期もしくは不定期の学術大会・研究集会を開催するなどの活動を行います。

設立年月日

2012年9月15日

役員組織

会長：竹村牧男

副会長：三浦節夫

理事：村上勝三、小路口聡、相楽勉、黒田昭信、大熊廣一、Frédéric Girard、呉震、Gereon Kopf、Ulrich Sieg、
Rainer Schulzer

【研究活動】

1. 国際井上円了学会フランス・アルザス研究集会「井上円了とその時代」（於フランス・アルザス・欧州日本学研究所、2012年6月30日）

開会の辞：竹村牧男

歓迎の辞：サカエ・ジルー・ムラカミ（CEEJA）

三浦節夫（IRCP）「井上円了の生涯」

竹村牧男「井上円了の哲学について」

ライナ・シュルツァ（IRCP 客員研究員）「大乘哲学とスピノザ哲学の比較についての井上円了の考え」

市川義則（パリ国際大学都市日本館図書室）「井上円了の洋行と日本人の海外移住—民衆教育者としての側面—」

エディ・デュフルモン（ボルドー第3大学）「唯物論と無神論をめぐる論争—兆民、円了と仏教—」

フレデリック・ジラル（フランス極東学院）「明治期仏教界の状況について」

黒田昭信「思想史の方法論——思想の受容史から受容の思想史へ——」

全体討論

閉会の辞：三浦節夫

2. 国際井上円了学会設立大会（於東洋大学白山キャンパス2号館16階スカイホール、2012年9月15日）

開会の辞：三浦節夫

設立記念講演：竹村牧男「井上円了の哲学について」

公開シンポジウム「国際人・井上円了——その思想と行動——」

ゲレオン・コプフ「井上円了の近代仏教」

ミヒヤエル・ブルチャー（東京大学）「井上円了における「主軸」—日本思想の近代化についての一考察」

王青（中国社会科学院）「蔡元培と井上円了の宗教思想の比較研究」

ライナ・シュルツァ「世界哲学の交差点—井上円了における理論哲学と実践哲学—」

三浦節夫「井上円了の世界旅行」

討論

閉会あいさつ：村上勝三

【発行物】

1. 『国際井上円了研究』第1号

目次

竹村牧男「創刊にあたって」

フランス研究集会報告

三浦節夫「井上円了の生涯」

竹村牧男「井上円了の哲学について」

シュルツァ、ライナ「大乘哲学とスピノザ哲学の比較についての井上円了の考え」
市川義則「井上円了の洋行と日本人の海外移住——民衆教育者としての一側面」
デュフルモン、エディ「井上円了の時代を理解するための一考。中江兆民と仏教」
ジラル、フレデリック「明治期に於ける佛教の状況について」
黒田昭信「思想史の方法論——思想の受容史から受容の思想史へ」
国際井上円了学会設立大会報告」
竹村牧男「井上円了の哲学について」
コプフ、ゲレオン「井上円了の「近代仏教」」
ブルチャー、ミヒャエル「井上円了における「主軸」——日本思想の近代化についての一考察」
王青「蔡元培と井上円了における宗教思想の比較研究」
シュルツァ、ライナ「世界哲学の交差点——井上円了における理論哲学と実践哲学——」
三浦節夫「井上円了の世界旅行」
討論

研究論文等の発表

著書

渡辺章悟『絵解き般若心経—般若心経の文化的研究』ノンブル社、2012年5月、pp. 1-249.
相楽勉〔共編著〕『科学と技術への問い—ハイデッガー研究会第三論集』理想社、2012年7月、pp. 1-277.
堀内俊郎〔共著〕「中期瑜伽行派の思想」『シリーズ大乘仏教』（春秋社、pp. 111-149、2012年8月）
竹村牧男『〈宗教〉の核心 西田幾多郎と鈴木大拙に学ぶ』（春秋社、2012年10月、pp. 1-259）
村上勝三『デカルト形而上学の成立』（第二版）（講談社学術文庫、2012年10月、pp. 1-383）
村上勝三〔共著〕「ライプニッツはデカルトとどのように対決したのか」『ライプニッツ読本』（法政大学出版局、pp. 184-195、2012年10月）
村上勝三〔共著〕「形而上学と超越」『形而上学の可能性を求めて 山本信の哲学』（工作舎、pp. 195-203、2012年10月）
山口一郎『現象学ことはじめ 改訂版』（日本評論社、2012年10月、pp. 1-343）
山口一郎〔共著〕「微小表象と受動的綜合」『ライプニッツ読本』（酒井潔他（編）、法政大学出版局、pp. 284-301、2012年10月）
吉田公平『中国近世の心学思想』（研文出版、2012年10月、pp. 1-482）
菊地章太〔分担執筆〕「思考のパラダイム」（東洋大学編『哲学をしよう！ 考えるヒント 30』大成出版社、pp. 44-52、2012年11月）
清水高志〔共著〕「集合的知性」（東洋大学編『哲学をしよう 考えるヒント 30 “Living philosophy！”』、大成出版社、pp. 340-347、2012年11月）
三浦節夫『人間・井上円了』（東洋大学史ブックレット4、東洋大学、2012年11月、pp. 1-48）
菊地章太『妖怪学の祖 井上円了』（角川選書518、角川学芸出版、2013年1月、pp. 1-216）
菊地章太『妖精たちのラビリンス — 西洋妖怪紀行』（角川学芸出版、2013年2月、pp. 1-224）
清水高志『ミシェル・セール はじまりの風景』（白水社、2013年）
小路口聡〔共編著〕『哲学資源としての中国思想——吉田公平教授退休記念論集』（研文出版、2013年）

研究論文

伊吹敦「南宋・金の衰亡と禪（下之下） 要説・中国禅思想史 33」（『禅文化』224号、pp. 142-150、2012年4月）
山口しのぶ「西インドのヒンドゥー教」（『朝倉世界地理講座4』（立川武蔵・杉本良男・海津正倫 編）朝倉書店、pp. 315-322、2012年6月）

- 伊吹敦「モンゴルの中国支配と禪（上） 要説・中国禅思想史 34」（『禅文化』225号、pp. 64-72、2012年7月）
- 菊地章太「切支丹でうすの魔法（一）南蛮わたりの邪宗門」（『怪』36号、角川書店、pp. 154-158、2012年7月）
- 橋本泰元 “Kabir’s doha: its History and Concepts” (Nagasaki, Hiroko ed., *Indian and Persian Prosody and Recitation*, Delhi: Saujanya Publications, pp. 164-172, July 2012)
- 渡辺章悟「般若経の成立過程—智の展開を中心として」（日本仏教学会編『経典とは何か（二）—経典の成立と展開受容』平楽寺書店、pp. 29-62、2012年7月）
- 野間信幸著、高恵玲譯、呉佩珍導読「張文環與〈風月報〉」（原題「張文環と風月報」）（『中心到辺陲的重軌與分軌——日本帝国與台湾文学、文化研究』収、国立台湾大学出版中心、2012年8月）
- 渡名喜庸哲「レヴィナスにおける倫理と政治：プラトンとの対話と「もう一つのアルケー」」（『社会思想史研究』（社会思想史学会）36号、pp. 108-126、2012年9月）
- 三浦節夫「井上円了の青少年時代の思想」（『井上円了センター年報』21号、pp. 51-86、2012年9月）
- 伊吹敦「モンゴルの中国支配と禪（中） 要説・中国禅思想史 35」（『禅文化』226号、pp. 102-110、2012年10月）
- 菊地章太「切支丹でうすの魔法（二）小日向切支丹屋敷」（『怪』37号、角川書店、pp. 210-214、2012年11月）
- 清水高志「結合法論におけるライブニッツ」（『ライブニッツ研究』第2号、pp. 53-67、2012年11月）
- 三浦節夫「東洋大学百二十五年の歩み」（『東洋大学 by AERA』、朝日新聞出版、pp. 84-89、2012年11月）
- 朝倉輝一「ケアにおける承認の問題」（『東洋法学』第56号第2巻 通巻123号、東洋法学会、2013年1月）
- 曾田長人「カール・バルトによるスイス批判、反共産主義をめぐる論争—スイスにおける1940年代から50年代にかけての「過去の克服」をめぐる一断面—」（『保坂一夫先生喜寿記念論集』、同学社、2013年1月）
- 渡辺章悟「般若経の形成と展開」（『智慧・世界・ことば—大乘仏典 I』第2章（シリーズ大乘仏教・第4巻）春秋社、pp. 1-53、2013年1月）
- 伊吹敦「道瑢は天台教學に詳しかったか？」（『印度学佛教学研究』61巻2号、2013年3月）
- 伊吹敦「初期の禪宗が日本の佛教に與えた影響—大安寺道瑢を中心に—」（『東洋学論叢』66集、2013年3月）
- 岩井昌悟「チュンダの供養—Paṭhamasambodhi の訳注研究」（『東洋学論叢』インド哲学科篇第38号（『東洋大学文学部紀要』第66集）、2013年3月）
- 大野岳史「スピノザの物体論における運動と静止」（『白山哲学』第47号、2013年3月）
- 菊地章太「切支丹でうすの魔法（三）七代のちに復活す」（『怪』38号、角川書店、2013年3月）
- 菊地章太「罪を分解する—六朝道教の死霊祭祀から現代へ—」（『東洋学研究』50号、2013年3月）
- 坂井多穂子「楊萬里の『喜雨』詩について」（『東洋大学中国哲学文学部紀要』第21号、2013年3月）
- 相楽勉「井上哲次郎「現象即實在論」の方法論的意義」（『東洋学研究』第50号、2013年3月）
- 小路口聡「宋明心学における「現在」主義の哲学」（『哲学資源としての中国思想』研文出版、2013年3月）
- 小路口聡「天地を生み出す良知について」（『東洋大学中国哲学文学部紀要』21号、2013年3月）
- 白井雅人「自覚の事実とその展開——後期西田哲学における自覚の問題——」（『国際哲学研究』2号、2013年3月）
- 曾田長人「W. J. ゲッゲンハイム『日本への爆撃機』とスイスの「精神的国土防衛」」（『人間科学総合研究所紀要』第15号、東洋大学人間科学総合研究所、2013年3月）
- 曾田長人「市民社会と古典教養—公共性の転換」（『現代ドイツへの新たな視座』第1巻、勉誠出版、2013年3月）
- 竹中久留美「How does the blue arise?」（『東洋大学大学院紀要』第49集、2013年3月）
- 永井晋 “IZUTSU TOSHIHIKO, M. DALISSIER” (S. NAGAI, Y. SUGIMURA (édité par), *Philosophie japonaise*, Librairie Philosophique J. Vrin, pp. 353-388, mars 2013)
- 沼田一郎「「贖罪」規定 (prāyaścitta) の変容から見た dharma 文献の構造」（『印度学仏教学研究』（日本印度学仏教学会）第61巻第2号、2013年3月）
- 沼田一郎「Bhārucci : *Manuśāstravivaraṇa* 第8章訳注（1）」（『東洋学研究』第50号（東洋大学東洋学研究所）、2013年3月）
- 沼田一郎「インド古代法における〈寄託〉概念」（『東洋学論叢』（東洋大学文学部紀要インド哲学科篇）第38号

(東洋大学文学部)、2013 年 3 月)

野間信幸「張文環作品の原郷」(『東洋大学 中国哲学文学科紀要』第 21 号、2013 年 3 月)

橋本泰元「スィク教研究—聖典の構成について」(『東洋学論叢 (東洋大学文学部紀要第 66 集)』38 号、2013 年 3 月)

播本崇史「明末天主教における「霊」と「理」に関する一考察」(『東洋大学中国哲学文学科紀要』21 号、2013 年 3 月)

堀内俊郎「『楞伽經』テキストの諸問題」(『印度学仏教学研究』、2013 年)

堀内俊郎「『釈軌論』第 2 章経節 (62) — (63) 訳注—多文化共生の基盤の構築に向けての「法を説き聞き・法を聞く説く」こと—」(『国際哲学研究』2 号、2013 年 3 月)

三浦節夫「井上円了の生涯」(『国際井上円了研究』1 号、2013 年 3 月)

三浦節夫「井上円了の世界旅行」(『国際井上円了研究』1 号、2013 年 3 月)

三澤祐嗣「On the Theory of śuddhetarasṛṣṭi in the *Ahīrbudhnyasamhitā*」(*Journal of Indian and Buddhist studies*, Vol. 61, 2013 年 3 月)

三澤祐嗣「サーンキヤ思想におけるグナ論—3 種のグナによる輪廻の様相—」(『東洋学研究』第 50 号、2013 年 3 月)

三澤祐嗣「『ラクシュミー・タントラ』第 1 章訳註」(『東洋大学大学院紀要』第 49 集、2013 年 3 月)

山口しのぶ「『シヴァ・プラーナ』にみられるグシュメーシュヴァラ・ジョーティルリングの縁起譚」(『東洋学論叢』38 号、2013 年 3 月)

吉田公平「岡本巍の気運論について」(『東洋学研究』50 号、2013 年 3 月)

渡辺章悟「般若経の三乗思想」(『伊藤瑞靱博士古稀記念論文集』立正大学篇、2013 年 3 月)

渡辺章悟「八千頌般若の satpuruṣa」(『東洋学論叢』東洋大学インド哲学科篇、2013 年 3 月)

渡辺章悟「金剛般若経に見る筏喻」『松ヶ岡文庫研究年報』27 号 (2013 年 3 月)

渡名喜庸哲 « Emmanuel Levinas et le problème de la laïcité. La place de la judéité en France contemporaine » (*Études de langue et littérature françaises* (Société Japonaise de Langue et Littérature Française), no. 102, 2013)

翻訳

山口一郎／浜渦辰二 (共監訳)、エトムント・フッサール『間主観性の現象学—その方法』ちくま学芸文庫、2012 年 5 月、pp. 1-552.

野間信幸『鍾理和集』研文出版、2012 年 9 月、pp. 1-95.

吉田公平、小路口聡「王畿『龍溪王先生会語』訳注—其の十二」(『東洋古典學研究』第三十四号、2012 年 11 月、pp. 77~111 *早坂俊廣・鶴成久章・内田健太・本多道隆共著)

渡名喜庸哲訳、ジャン＝リュック・ナンシー『フクシマの後で——破局、技術、民主主義』以文社、2012 年 11 月、pp. 1-199.

渡辺章悟「お経の真意—般若心経・観音経の現代語訳」(『神仏参拝の由来と作法がわかる本』新人物往来社、pp. 296-306、2012 年 12 月)

小路口聡、吉田公平「王畿『龍溪王先生会語』訳注—其十三」(『白山中国学』通巻 19 号、2013 年 1 月、pp. 1~30 *早坂俊廣・鶴成久章・内田健太・本多道隆共著)

渡名喜庸哲訳、エティエンヌ・タッサン「グローバリゼーションの時代における人間の条件」(『国際哲学研究』2 号、2013 年 3 月)

渡名喜庸哲訳、エティエンヌ・タッサン「フクシマは今—エコロジー的危機の政治哲学についての 12 の提言」(『国際哲学研究』別冊「ポスト福島哲学」、2013 年 3 月)

堀内俊郎訳、ケネス田中「アメリカに浸透する仏教—その意義と現状」(『国際哲学研究』2 号、2013 年 3 月)

堀内俊郎訳、ゲンボ・ドルジ「スピリチュアリティと幸福」(『国際哲学研究』2 号、2013 年 3 月)

堀内俊郎訳、ゲンボ・ドルジ「ブータンのロ・ドゥク (南の雷龍) 伝統」(『国際哲学研究』2 号、2013 年 3 月)

三澤祐嗣、ジャヤンドラ・ソーニー「ジャイナ教における非暴力の哲学的正当化」(『国際哲学研究』2号、2013年3月)

書評その他

曾田長人「優生思想」(『比較教育学事典』、日本比較教育学会、東信堂、p. 380、2012年6月)

渡辺章悟「『般若心経』から見た観自在菩薩と空」(『佛教文化』第158号、pp. 13-19、東京国際仏教塾、2012年8月)

野間信幸「第14回学術大会を振り返って——第4分科会報告」(『日本台湾学会ニューズレター』第23号、p4、2012年10月)

曾田長人「ドイツ語教育における宗教的な要素の取り扱い」(『経済論集』[東洋大学経済学部]第38巻第2号、2013年3月)

渡名喜庸哲「フランスにおけるギュンター・アンダース」(『国際哲学研究』2号、2013年3月)

研究活動

学会・シンポジウム発表

伊吹敦「初期の禪宗が日本の佛教に與えた影響—大安寺道璿を中心に—」(玄奘大學語文教學暨文化交流國際學術研討會、玄奘大学、台湾・新竹、2012年5月4日)

堀内俊郎「ヴァスバンドウ(世親)『釈軌論』が展開する大乘仏説・非仏説論」(国際東方学会会議(ICES57) Symposium V、2012年5月25日)

野間信幸 第4分科会(文学)座長(日本台湾学会第14回学術大会、一橋大学、2012年5月26日)

渡名喜庸哲「エマニュエル・レヴィナスとライシテの問題：戦後フランスにおけるユダヤ性のありか」(日本フランス語フランス文学会、東京大学、2012年6月3日)

伊吹敦「禪宗の成立と佛性觀の變容」(第1回韓中日国際仏教学術大会、フェラム・ホール、韓国・ソウル、2012年6月23日)

伊吹敦「道璿は天台教學に詳しかったか？」(日本印度学仏教学会第63回学術大会、鶴見大学、2012年6月30日)

沼田一郎「贖罪規定の変容から見た dharma 文献の構造」(日本印度学仏教学会第63回学術大会、鶴見大学、2012年6月30日)

堀内俊郎「『楞伽經』テキストの諸問題」(日本印度学仏教学会第63回学術大会、鶴見大学、2012年6月30日)

三澤祐嗣「*Ahīrabudhnyasamhitā* における śuddhetarasṛṣṭi 説とサーンキヤ説」(日本印度学仏教学会第63回学術大会、鶴見大学、2012年6月30日)

曾田長人「『精神的国土防衛』の文学考—W. J. グッゲンハイム『日本への爆撃機』を手がかりに」(スイス文学研究会、明治大学駿河台キャンパス、2012年7月28日)

播本崇史「明末天主教における「靈」について」(白山中国学会第3回発表大会、2012年7月28日)

大野岳史「スピノザにおける無知としての奇跡」(日本宗教学会第71回学術大会、皇学館大学、2012年9月8日)

岩井昌悟「菩薩の信(saddhā)について——佛もまた過去佛の佛弟子か」(日本佛教学會第82回(2012年度)学術大会、花園大学、2012年9月14日)

永井晋「神名の沈黙と語ること—＜動き＞の現象学」(上智哲学会シンポジウム「沈黙と語り—宗教思想のゆくえ」、上智大学、2012年10月28日)

伊吹敦「日本の古文獻に見られる中国早期の禪宗—大安寺道璿撰『集中梵網經』を中心に—」(第3回世界漢学大会、人民大学、北京・中国、2012年11月4日)

大野岳史「スピノザ『形而上学的思想』における区別の理論」(中世哲学会第61回大会、文教大学、2012年11月10日)

永井晋「井上円了の妖怪学」(シンポジウム「W・Bイエイツと井上円了の世界」、東洋大学、2012年11月18日)
曾田長人「ドイツ語教育における宗教的な要素の取り扱い」(東洋大学人間科学総合研究所「大学における外国語教育の現状と未来」2012年度シンポジウム「異文化理解と外国語教育—宗教と思想の視点から—」、東洋大学白山第1キャンパス、2012年12月15日)

渡名喜庸哲 « Quelques réflexions sur la philosophie d'après Fukushima » (Séminaire du Centre de Sociologie des Pratiques et des Représentations Politiques, Université Paris Diderot, le 14 février 2013.)

渡名喜庸哲「破局の凡庸性」(「グローバル化時代における現代思想 (CPAG)」若手研究者ワークショップ「ジャン＝リュック・ナンシー『フクシマの後で』から出発して」、東京大学、2013年2月23日)

岩井昌悟「井上円了の〈宇宙万物に対する徳義〉」(シンポジウム「円了×熊楠—近代日本のエコ・フィロソフィ」(TIEPh主催、国際井上円了学会後援)、スカイホール、2013年2月24日)

竹中久留美「ヒュームのミッシング・シェイド・オブ・ブルーについて」(日本イギリス哲学会第37回研究大会、東北大学、2013年3月26日)

その他の研究会

三澤祐嗣「サーンキヤ思想における輪廻観—タマスによる獣の位および地獄への降下—」(東洋学研究所研究発表例会、東洋大学、2012年7月7日)

播本崇史「明末天主教と本体論」(東洋大学東洋学研究所研究発表例会、2012年12月22日)

相楽勉「『死の受容』の哲学的考察」(東洋学研究所研究発表会、2013年1月12日)

吉田公平「西村茂樹の『心学講義』について」(日本哲学史フォーラム、京都大学、2012年12月15日)

調査活動

野間信幸 高雄美濃・内門、嘉義出水坑 (2012年9月5日～9月11日)

講演

渡辺章悟「『般若心経』を読む」(NPO法人かわさき市民アカデミー、ワークショップ、川崎市生涯学習プラザ：武蔵小杉、2012年4月9日—7月23日)

竹村牧男「円了における哲学と宗教」(日本工業倶楽部・素修会、日本工業倶楽部(東京・丸の内)、2012年5月9日)

渡辺章悟「大乘仏教論」(東京国際仏教塾、本郷：東京大学仏教青年会ビル、2012年6月2日)

竹村牧男「東洋大学の創立者 井上円了の人と思想」(東洋大学創立125周年記念事業・全国行脚講演会東京会場、井上円了ホール(東洋大学白山校舎5号館)、2012年6月10日)

渡辺章悟「維摩居士の倫理とは」(『東洋思想への誘い—インド文化・仏教の倫理思想—』東洋大学エクステンション講座、東洋大学白山校舎、2012年6月23日)

竹村牧男「東洋大学の創立者 井上円了の人と思想」(東洋大学創立125周年記念事業・全国行脚講演会 in 名古屋、名古屋国際会議場、国際会議室(3号館3階)(名古屋市熱田区)、2012年7月8日)

渡辺章悟「今、なぜ井上円了か」(長崎県諫早市：東洋大学校友会長崎支部、2012年7月8日)

小路口聡「天地を生み出す良知について」(白山中国学会第3回大会、基調講演、東洋大学、2012年7月28日)

竹村牧男「東洋大学の創立者 井上円了の人と思想」(東洋大学創立125周年記念事業・全国行脚講演会 in 福岡、福岡ソフトリサーチパーク、2012年8月4日)

竹村牧男「東洋大学の創立者 井上円了の人と思想」(東洋大学創立125周年記念事業・全国行脚講演会 in 仙台、仙台国際センター2階、橘(大会議室)、2012年9月1日)

竹村牧男「井上円了の人と思想」(東洋大学校友会茨城県支部特別講演会、甲子亭(牛久市田宮町、2012年9月9日)

竹村牧男「井上円了の人と思想」(東洋大学文化講演会 in 牛久、東洋大学附属牛久高等学校、2012年10月13日)

渡辺章悟「赤十字の思想と仏教の憐愍」（日本赤十字秋田看護大学：秋田市、2012年11月13日）

永井晋「スーフィズムとは何か」（「トルコの旋回舞踏公演」における講演、東洋大学、2012年11月29日）

渡辺章悟「絵で読み解く般若心経—江戸時代の南部絵文字文化—」（黄檗勉強会、黄檗宗洞雲寺：東京都豊島区池袋、2012年11月29日）

菊地章太「京都・呪術の都—道教が生み出した日本文化のかたち」（JR 東海「歴史の歩き方」第61回、よみうりホール、2012年12月5日）

宮本久義「ヒンドゥー教の世界観と人生観」（府中市民講座、府中市生涯学習センター、2012年12月11日）

東洋大学国際哲学研究センター編『国際哲学研究』投稿規程

2012 年 4 月
東洋大学国際哲学研究センター運営委員会

東洋大学国際哲学研究センター運営委員会は、『国際哲学研究』編集委員会（以下、編集委員会）を立ち上げ、『国際哲学研究』（*Journal of International Philosophy*）に対する投稿規程を下記の通り定める。

記

1. 『国際哲学研究』（*Journal of International Philosophy*、以下、本誌とする）は、哲学およびその関連領域の論文、訳註、研究ノート、研究動向、資料紹介、書評、シンポジウム・講演会・研究会等の報告などを掲載する。
2. なお、上記のうち、論文とは、研究会等の報告に基づいて発表者が論文としてまとめたもの、及び、それらの会で発表しなかったものも含む。シンポジウム・講演会の報告も発表者にまとめていただくが、掲載時には論文の項目には入れない。
3. 本誌には、本センター研究員・客員研究員・研究助手・RA、および編集委員会の依頼を受けた者が投稿できる。また、連名も可とする。
4. 投稿論文等は、未発表のものに限る。また、受理された原稿は、他の学会誌などに投稿はできない。
5. 本センター研究助手と RA による投稿論文等は、編集委員会が査読を行ったのち、掲載非掲載を決めることとする。
6. 原稿作成にあたっては、「『国際哲学研究』執筆要領」に従うこととする。
7. 著者校正は原則として 1 回とする。
8. 抜刷は作成しないが、著者から PDF データの要望があった場合は配布する。ただし、要望の期間は投稿受理後から刊行後 1 か月以内までとする。
9. 本誌に掲載された論文等の著作権は、本センターに属するものとする。他所で当該論文等を転載、翻訳などをする場合は、本センターの許諾が必要である。ただし、著作者自身が利用することに対して、本センターはこれを妨げず、原則として無償で許可するものとする。
10. 本誌に掲載された論文等は、原則として、本センターホームページで、PDF・電子テキストの形で公開することがある。また、外部機関の電子アーカイブ化事業にも情報を提供することもあるので、あらかじめ了承さ

りたい。

<付則>

1. 平成 23 年度刊行の本誌 1 号に関しては、本センターが平成 24 年 6 月中に著作者に著作権譲渡承諾書を送り、平成 24 年 7 月 31 日までに著作者が著作権を主張した場合は、著作権は著作者に属するものとする。また、著作者が電子媒体での公開を拒否した場合は、公開はしないものとする。
2. この規程は運営委員会の議決によって改訂することができる。
3. この規程は平成 24 年度より適用する。
4. この規程は平成 28 年 3 月 31 日まで有効とする。

Foreword

What Should We Do Next?

Murakami Katsuzo
Director
International Research Center for Philosophy, Toyo University

During 2012, the second year since the establishment of the International Research Center for Philosophy, various events were held to commemorate the 125th anniversary of Toyo University, and it was a year of productivity and growth for the Center too. As of December 2012, the staff number fifty in all, including researchers, visiting researchers, research associates, and research assistants. As for our activities, a total of about twenty study group sessions (one taking the form of a Web-conference) were conducted by the three units, and there were also held two overseas seminars (France and Bhutan), four international symposiums (one taking the form of a web—conference), the inaugural conference of the International Association for Inoue Enryō Research, and other workshops. Approximately twenty overseas researchers participated in these events, which were conducted in Japanese, English, French, German, Chinese, and Persian.

When the Center was established, its aims were set out as follows: “One feature of modern society lies in the fact that the globalization of every aspect of society and the diversification of values are forcing people to be unable to determine the direction where they are heading. Living in this modern society, we need to pursue philosophical inquiry that fundamentally reexamines the current state of people and society. In order to address this challenge, we have formed an international network of philosophical research—on the one hand presenting to the world the contemporary significance of the philosophy of Enryō Inoue as the thoughts of a citizen of the earth, and on the other hand researching the formation of a universal philosophical foundation that goes beyond the distinctions between Eastern and Western thought.”

With the support of a great many people we have, I believe, made considerable progress this year in drawing closer to the accomplishment of these objectives. In September 2012, the 1st Unit established the International Association for Inoue Enryō Research as one of the projects to commemorate the 125th anniversary of Toyo University. In addition, the Center as a whole hosted an international conference on “Philosophy Facing a Globalized World,” to which researchers from India, China, the United States, and France were invited. The International Association for Inoue Enryō Research, one of the activities of the 1st Unit, is an undertaking that will need to be fostered and expanded into a global centre for research on Inoue Enryō, and as of December 2012 it has 93 members (including organizations). As basic research for guaranteeing the success of the Association, the 1st Unit is also continuing its research activities in the area of Japanese philosophy since the Meiji era. As part of these activities, it has been conducting Internet-based classes for the master’s course of the Department of Japanese Studies at the University of Strasbourg in France.

The main focus of the activities of the 2nd Unit is research on methodology and its realization. In research on methodology, it has conducted a webinar linking Paris, Vienna, and Tokyo, while its engagement with practice took the form of a symposium aiming to gain a grasp of global diversity regarding the concept of “law,” as well as a study group session aimed at building up “Philosophy of post-Fukushima.”

The 3rd Unit has been approaching “symbiosis,” or coexistence, from many different angles. Major projects of the current year have been the holding of an international conference in Bhutan and a symposium on Iran. The latter, on the topic of “The Philosophy of Co-existence: Dialog with Islam,” was attended by the Iranian ambassador in

Japan. These two events won high appraisal for having taken a definite step beyond our hitherto framework of “symbiosis.” It is hoped that exchange with Iranian researchers will continue in the future and become a core activity of the 3rd Unit. The three units, each taking their own original approaches, are cooperating in making every effort to establish a venue where “communication,” “internationalization of methods,” and “symbiosis” can become one so as to establish a foundation for knowledge that can be shared by all of humanity.

Next year will be our third year, a turning point for the Center. Clarifying any shortcomings, but also reaping the just fruits of our endeavours, we will continue to make every effort to enrich our activities on the basis of self-reflection. I ask you for your continuing warm support.

* About the contents:

The first part of this volume constitutes articles written in Japanese and Japanese translations of the texts written in English, German, French and Chinese. The latter part is comprised of the translations of the Japanese articles (into English, German, French and Chinese) and the original texts of the English, German, French and Chinese articles that appear in the first part. The articles follow the same order in both parts of the volume.

Prospectus

Murakami Katsuzo

In the middle of the twentieth century technological inventions and also errors involving nuclear power began to affect the whole world, and we were compelled to deal with the resultant destruction of the natural environment, including human society. A further twenty or thirty years later a conflict breaking out anywhere in the world could have an influence on the energy resources of a great many countries, and it became no longer possible to manage the growth of one's own country without taking into consideration political trends in faraway lands. In contrast, it has been only quite recently that movements in exchange rates have begun to have a direct impact on the economies of all nations and their people.

Today we possess the means to seek out information about almost all events occurring across the globe from one minute to the next. And unlike in the past, our thinking is being swayed daily by the manipulation of information in various ways and different kinds of pressure emanating from all parts of the world, and we find ourselves in a psychologically unstable state.

In a world that has already become globalized we must set about building our own lives. Is there any philosophy on which we can rely when seeking to build our lives? What sort of influence does religion have on the building of our lives? When thinking along these lines, it would be most lamentable and deplorable if the only way of thinking available to us turned out to be nothing but a closed, egocentric form of thinking that employs as "evidence" the emotions and feelings of a single person and also a narrow-minded sense of camaraderie. Do we, then, possess a philosophy for overcoming egoism and thereby influencing the real world? Do we have a philosophy capable of arguing on grounds able to be understood by anyone that another person facing us thousands of kilometres away on the opposite side of the globe is a person just like a neighbour in our immediate vicinity? So long as religions have the existence of other religions as their *raison d'être*, entrusting this lack of a support in our lives to religion will not provide a global solution. Is this not a serious scandal in the long history of philosophy and religion?

We want to call the attention of all people around the world to this state of affairs and appeal with strong words of rejection to a world in which success is achieved at the sacrifice of the weak. Towards this end, we have decided to provide a venue for dialogue that transcends national borders as well as the boundaries between academic disciplines.

The theme of "philosophy facing a globalized world" is informed with the above wishes, close to prayers. But what we need to search for is not prayers but rational thought be it so for philosophy or religion. So, we have decided to hold this international symposium in our capacity as researchers coming face to face with the difficulties of a globalized world so as to fulfill a part of our important role with the cooperation of researchers from different countries and various disciplines.

Summary of Research Results Produced by the International Research Center for Philosophy, Toyo University, for the 2012 Academic Year (as of 1 January 2013)

[Summary of Research Projects and Research Organization]

Summary of Research Projects

The International Research Center for Philosophy (IRCP) was adopted as a Strategic Research Base Development Program for Private Universities at the end of May 2011 and officially inaugurated on July 1, 2011. We would like to introduce our intentions as follows.

Philosophical studies that fundamentally question the shape of humans and their society is necessary in our contemporary society, where globalization is progressing, values are diversifying, and the path to the future is obscured. The IRCP aims to form an international network of philosophical research to answer these global issues and internationally communicate the modern role of the philosophy propounded by Enryo Inoue, which engenders global cooperation while noticing the differences between Eastern and Western thought.

The IRCP has established the following three units.

1. In the 1st Unit, we present Japanese thought since the Meiji era (1868–1912), in particular the philosophy of Inoue Enryo, the founder of Toyo University. To do this, we are conducting research projects to cultivate Enryo's philosophy and establish the International Association for Inoue Enryo Research.
2. In the 2nd Unit, we methodologically support these three units through theoretical and practical means and aim to construct a new universal methodology that is the basis of various disciplines and can be shared globally. "A philosophy of post-Fukushima" has been assigned as a practical issue.
3. In the 3rd Unit, we strive to present a new worldview that goes beyond diversity, incorporating the active attributes of Eastern thought based on *kyosei* (harmonious coexistence) for a contemporary society, which is in strife and turmoil because of the spread of destabilizing relativism and its opposite, unipolarism.

Calendar of Recent Events at the International Research Center for Philosophy

Apr. 23, 2012	1st Study Group Session, 2nd Unit: Murakami Katsuzo "On 'Meditatio' as the Cartesian Method of Metaphysics"
Apr. 25	2nd General Meeting
May	<i>Newsletter</i> vol. 3 published (in Japanese and English)
May 23	1st Study Group Session, 3rd Unit Bahman Zakipour "Relation between Mahayana Buddhism and Iranians: From the Parthians to the Illuminationist school of Persian Islamic philosophy"
Jun. 27	1st Study Group Session, 1st Unit: Murayama Yasushi "Foreign philosophy professors at the University of Tokyo in the Meiji period"
Jun. 30	Study Meeting in France of the International Association for Inoue Enryo Research: "Inoue Enryo and his Times"
Jul. 4	2nd Study Group Session, 3rd Unit: Miyamoto Mari "Bhutan : Making a Nation as a Happy

- Society”
- Jul. 4 1st Conference on “A philosophy of post-Fukushima”, 2nd Unit: Jean-Pierre Dupuy “Rational Choice before the Apocalypse” and Ichinose Masaki: “Harmfulness of Radiation Problems : What Can Philosophy Say for Reconstruction ?”
 - Jul. 9 Yamaguchi Ichiro “Problems concerning “Value” and “Science” in Germany”
 - Jul. 11 Workshop of the 1st Unit: “Nishida Kitaro’s Philosophy of Religion : from the standpoints of Christianity and Buddhism”
 - Jul. 27 2nd Study Group Session, 1st Unit: Sagara Tsutomu “Problem of ‘Reality’ at the first period of the philosophy in Japan”
 - Aug. 24-30 Study assembly meeting of multicultural society and field work in Bhutan
 - Sep. 13 3rd Study Group Session, 1st Unit: Wu Zhen “Dissemination of Chinese Moral Books in Modern Japan and its Influence”
 - Sep. 15 Commemorative Lecture on The Inaugural General Assembly of the International Association for Inoue Enryo Research
 - Sep. 16 International Symposium to Commemorate the 125th Anniversary of the Foundation of Toyo University: “Philosophy facing a globalized world”
 - Sep. 22 2nd Conference on “A philosophy of post-Fukushima”, 2nd Unit: Etienne Tassin “Fukushima is now. Twelve Proposals for Political Philosophy of an Ecological Crisis”
 - Oct. 3 3rd Study Group Session, 3rd Unit: Jayandra Soni “Intercultural Relevance of Some Moments in the History of Indian Philosophy”
 - Oct. 6 3rd Conference on “A philosophy of post-Fukushima”, 2nd Unit: Yoshino Hiroyuki, Kida Yuko and Hikita Kasumi “Rest or Refuge: On Actual Situation of Fukushima”
 - Oct. 13 WEB International Meeting of the 2nd Unit: “Intuition and Reflection as Method of Philosophy”
 - Oct. 19 4th Conference on “A philosophy of post-Fukushima”, 2nd Unit: Kamanaka Hitomi “Around the Film ‘Living with Internal Exposure’”
 - Oct. 25 4th Study Group Session, 3rd Unit: Yauchi Yoshiaki: “‘Coexistence’ in the Thought of Anselmus”
 - Oct. 31 5th Study Group Session, 3rd Unit: Ishida Yasushi: “Body-Mind Relationship from the point of view of Placebo Effects”
 - Oct. 31 4th Study Group Session, 1st Unit: Iwai Shougo “How to think ‘Japan’ : loyalty and filial piety in Inoue Enryo”
 - Nov. *Newsletter* vol. 4 published (in Japanese and English)
 - Nov. 6 International Symposium: “The Philosophy of Co-existence: Dialog with Islam”
 - Nov. 10 Co-hosted Symposium: 3rd Symposium on Religion and the Environment: “Religion and How to Inform Daily Living with a New Principle of Civilization” (hosted by Religious and Scholarly Eco-Initiative, Tenri University)
 - Nov. 14 WEB International Meeting of the 1st Unit: Yoshida Kouhei “Chinese studies and western studies in the modern Japan —— around Nakae Chomin ——”
 - Nov. 22 Study report meeting, 3rd Unit: Miyamoto Hisayoshi, Horiuchi Toshio, Misawa Yuji: Report meeting of “Study Meeting and Field Work for Multicultural Coexistence in Bhutan”
 - Nov. 28 5th Study Group Session, 1st Unit: Sato Atsushi “Traditional Buddhism in Inoue Enryo”
 - Dec. 7 6th Study Group Session, 1st Unit: Inoue Katsuhito “Philosophy society in the Meiji period”
 - Dec. 13 7th Study Group Session, 1st Unit: Wu Guanghui “Actual situation of the researchs on Japanese modern philosophy in China”
 - Dec. 15 Symposium: “Time and space of the concept of “Law” : in search of the diversity and the

- possibilities of “Law”
- Mar. 12, 2013 5th Conference on “A philosophy of post-Fukushima”, 2nd Unit: Takahashi Tetsuya and Murakami Katsuzo (forthcoming)
- Mar. 14 7th Study Group Session, 1st Unit: Kosaka Kunitsugu (forthcoming)
- Mar. 28 6th Study Group Session, 3rd Unit: Suenaga Keiko and Matsushima Akihisa (forthcoming)
- Mar. *Journal of International Philosophy*, No. 2
- Mar. *Journal of International Philosophy*, extra issue, 1, *A philosophy of post-Fukushima*
- Mar. *Journal of International Philosophy*, extra issue, 2, *Time and space of the concept of “Law”: in search of the diversity and the possibility of “Law”*
- Mar. *Newsletter* vol. 5 (in Japanese and English)

Research Organization

[Researcher]

〈1st Unit〉

Takemura Makio Yoshida Kouhei Sagara Tsutomu ☆
 Shojiguchi Satoshi ◎ Iwai Shougo ○ Ibuki Atsushi Miura Setsuo

〈2nd Unit〉

Murakami Katsuzo ★ Yamaguchi Ichiro ◎ Noma Nobuyuki
 Numata Ichiro ○ Sakai Tahoko Shimizu Takashi Ohno Takeshi

〈3rd Unit〉

Miyamoto Hisayoshi ☆◎ Nagashima Takashi ○ Nagai Shin ○
 Yamaguchi Shinobu Hashimoto Taigen Watanabe Shougo Kikuchi Noritaka
 Asakura Koichi Soda Takehito

[Research Associate]

Shirai Masato Tonaki Yotetsu Horiuchi Toshio

[Project Research Assistant]

Harimoto Takafumi Takenaka Kurumi Misawa Yuji
 (★ =Director; ☆ = Vice-director; ◎ = Project Leader; ○ = Assistant project leader)

[Visiting Researchers]

Itoh Takako (Associate Professor at Faculty of Art and Design University of Toyama), Inagaki Satoshi (Part-time Lecturer at Toyo University and Rikkyo University), Inoue Tadao (Professor at The Japanese Red Cross Akita College of Nursing), Ōnishi Yoshitomo (Part-time Lecturer at Saitama University, Tokyo National University of Fine Arts and Music, and Kanagawa University), Ono Jun'ichi (Part-time Lecturer at Ghent University, Graduate School at University of Tokyo), Kuroda Akinobu (Associate Professor at Cergy-Pontoise University), Kenneth Tanaka (Professor at Musashino University), Kosaka Kunitsugu (Professor at Graduate School of Social and Cultural studies, Nihon University), Wu Zhen (Professor at Fudan University), Gereon Kopf (Associate Professor at Luther College), Saito Akira (Professor at Graduate School of Humanities and Sociology, University of Tokyo), Sato Atsushi (Part-time Lecturer at Toyo University &c.), James Baskind (Associate Professor at Kyushu Institute of Technology), Takeuchi Dai (Part-time Lecturer at Toyo University), BAIKAL (Associate Professor at College of Arts and Sciences of J.F.Oberlin University), Bahman Zakipour (Lecturer at World Religions Research Center, Moasese-ye Marefat wa Pajuhesh (Iran), enrolled in Graduate School at Taisho University), Frederic Girard (Professor at l'École française d'Extrême-Orient), Muramatsu Akira (Associate Professor at the Faculty of

Letters, Arts and Sciences, Waseda University), Yamauchi Hirota (Professor at Hiroshima University), Rainer Schulzer (Visiting Researcher at Inoue Enryō Research Center), Watanabe Hiroyuki (Part-time Lecturer at Toyo University)

Assessment Committee (Alphabetical order)

Asano Kiyoshi (Professor at Faculty of Economics, Toyo University)

Okazaki Hisahiko (Former Ambassador to Thailand)

Klaus Riesenhuber (Emeritus Professor of Sophia University)

Shimizu Hiroshi (Emeritus Professor of University of Tokyo)

Takayama Mamoru (Professor at Graduate School of Humanities and Sociology, University of Tokyo)

[Summary of Research Results (as of 1 January 2013, including forthcoming events and publications)]

Symposiums

1. International Symposium to Commemorate the 125th Anniversary of the Foundation of Toyo University: "Philosophy facing a globalized world" (at Sky Hall, 16th floor, Building 2, Hakusan Campus, Toyo University, September 16, 2012)

Opening Speech: Murakami Katsuzo (IRCP)

Welcome Address: Takemura Makio (President of Toyo University, IRCP)

Conference

Jayandra Soni (Universität Innsbruck, Austria)

"Philosophical Justification of Non-Violence in Jainism"

Wu Zhen (Fudan University, China)

"Chinese elements in the moral philosophy in Tokugawa shogunate"

Etienne Tassin (Université Paris Diderot, France)

"Human Condition at the Time of the Globalization"

Kenneth Tanaka (Musashino University, Japan)

"The Penetration of Buddhism in America: Its Reality and Significance"

Discussion, moderated by Ichiro Yamaguchi (IRCP)

Comment: Murakami Katsuzo

Round table

Closing Speech: Miyamoto Hisayosi (IRCP)

2. International Symposium "Towards a Philosophy of Co-existence: A Dialog with Islam" (at Sky Hall, Building 2, Hakusan Campus, Toyo University, November 6, 2012)

Opening Speech: Miyamoto Hisayoshi

Abdolrahim Gavahi (World Religions Research Center) "Dialogue between Islam and Shintoism: Precursor of Cultural Understanding and Cooperation"

Mori Mizue (Kokugakuin University) "Motoori Norinaga's Criticism on 'Han-yi (Chinese mind)'"

Davood Feirahi (University of Tehran) "Shiite Contemporary Schools and the Relation between Different Religious Schools and Civilizations"

Kuroda Toshio "Possibility of Co-existence with Islam: From the point of View of comparison with Buddhism"

Bijan Abdolkarimi (Open University, Islamic Azad University) "The Importance and Necessity of

Comparative Philosophy”

Kamada Shigeru (University of Tokyo) “Co-existence with Others and Islam”

Hassan Seyedarab (Encyclopedia Islamica Foundation) “Shohravardi and Corbin: Dialogue between Iran-Islam’s Thought and Modern Philosophy”

Ono Jun’ichi (IRCP Visiting Researcher) “Shohravardi: Orient as Pure Phenomenon”

Bijan Abdolkarimi “Henry Corbin’s Heideggerian Inspired Insights”

Nagai Shin (IRCP) “Henry Corbin’s Phenomenology”

Discussion (The Chair: Nagai Shin)

Closing Speech: Nagai Shin

3. Symposium “Time and space of the concept of “Law” : in search of the diversity and the possibility of “Law” (at Room 6217, Building 6, Hakusan Campus, Toyo University, December 15, 2012)

Suzuki Ken (Hokkaido University)

“On the specificity of the Chinese concept of law”

Numata Ichiro (IRCP)

“Ethics and social norms in ancient India”

Horii Satoe (J. F. Oberlin University)

“The concept of law in Islam”

Horiuchi Toshio (IRCP)

“The dirersity of the concept of dharma in Buddhism: From the view point of history of ideas”

Kasai Yasunori (University of Tokyo)

“On the concept of *nomos* in ancient Greece”

Discussion, moderated by Yamaguchi Ichiro

WEB International Meetings

1. WEB International Meeting of the 2nd Unit: “Intuition and Reflection as Method of Philosophy” (at Special Meeting Room, Building 5, Hakusan Campus, Toyo University, October 13, 2012)

Yamaguchi Ichiro

“Zur Anschauung und Reflexion — bei Nishida und Husserl”

Kuroda Akinobu (the University of Cergy-Pontoise)

“L’intuition agissante et l’auto-éveil — Fondement des méthodes des sciences et méthode de la philosophie —”

Jocelyn Benoist (University Paris I)

“Quelques réflexions sur la “surréflexion””

Okada Mitsuhiro (Keio University)

“Intuitive evidence and formal evidence in proof-formation”

Commentator: Georg Stenger (the University of Vienna)

Moderator: Murakami Katsuzo

2. WEB International Meeting of the 1st Unit: (at Special Meeting room, Building 5, Hakusan Campus, Toyo University, on November 14, 2012)

Yoshida Kouhei (IRCP)

“Chinese studies and western studies in the modern Japan —— around Nakae Chomin ——”

Workshop

1. Workshop of the 1st Unit: “Nishida Kitaro’s Philosophy of Religion : from the standpoints of Christianity and Buddhism” (at Room 5201, Building 5, Hakusan Campus, Toyo University, July 11, 2012)

Gereon Kopf (Luther College)

“Critical Comments on Nishida’s Use of Chinese Buddhism”

Ishii Samoa (Japan Lutheran College and Seminary)

“Nishida’s Philosophy and Christianity–Explication from the Concept of Love”

Kosaka Kunitsugu (Nihon University)

“Nishida’s Philosophy and Religious Philosophy”

【Publications】

1. *Journal of International Philosophy*, No.2 (March, 2013)
2. *Journal of International Philosophy*, extra issue 1 « *A philosophy of post-Fukushima* » (March, 2013)
Contents
Preface (Murakami Katsuzo)
Jean-Pierre Dupuy “Rational Choice before the Apocalypse”
Ichinose Masaki “Harmfulness of Radiation Problems : What Can Philosophy Say for Reconstruction?”
Etienne Tassin “Fukushima is Now: Twelve Proposals for Political Philosophy of an Ecological Crisis”
Yoshino Hiroyuki, Kida Yuko, Hikita Kasumi “Rest or Refuge: On Actual Situation of Fukushima”
Kamanaka Hitomi “Around the film “Living with Internal Exposure””
3. *Journal of International Philosophy*, extra issue 2 « *Time and space of the concept of “Law” : in search of the diversity and the possibility of “Law”* » (March, 2013)

Contents

Preface (Numata Ichiro)

Suzuki Ken “On the specificity of the Chinese concept of law”

Numata Ichiro “Ethics and social norms in ancient India”

Horii Satoe “The concept of law in Islam”

Horiuchi Toshio “The diversity of the concept of dharma in Buddhism: From the view point of history of ideas”

Kasai Yasunori “On the concept of *nomos* in ancient Greece”

International Association for Inoue Enryō Research

【summary】

Scope

In the early Meiji era, when Japan began exploring the structure of modern government, a distinguished philosopher and educator named Inoue Enryō appeared. He dedicated his life to a broad range of educational projects and laid the foundation of philosophical study in Japan, establishing Tetsugakukan, a school for human resource development based on philosophical education, and making a great effort to provide intellectual enlightenment to the general public across the country. His various achievements are also recognized in a vast collection of writing that he left behind, including books about philosophy.

Today, the footsteps of Inoue, who played a major role in public enlightenment and social reform from the

perspective of philosophy in the early modernization of Japan and cast no small impact on the subsequent direction of Japanese society, ought to be deeply reflected on once again.

Toyo University, the successor institution to Tetsugakukan, established International Association for Inoue Enryō Research this year in order to vigorously promote research on Enryō Inoue within a framework of international cooperation. In conjunction with this, the International Society of Enryō Inoue will be launched in order to engage in activities such as holding regular or occasional workshops and conferences.

Founded

September 15, 2012

Organization

Chairman : Takemura Makio

Vice Chairman: Miura Setsuo

Executive Director: Murakami Katsuzo, Shojiguchi Satoshi, Sagara Tsutomu, Kuroda Akinobu, Okuma Hirokazu,
Frederic Girard, Wu Zhen, Gereon Kopf, Ulrich Sieg, Rainer Schulzer

【Research Activities】

1. Study Meeting in Fiance of the International Association for Inoue Enryō Research “Inoue Enryō and his Days”
(at Centre Européen d’Études Japonaises d’Alsace (CEEJA) on June 30, 2012)

Opening address : Takemura Makio

Welcome address : Sakae Murakami-Giroux (CEEJA)

Miura Setsuo (IRCP) “The Life of Inoue Enryō”

Takemura Makio “About Inoue Enryō’s Philosophy”

Rainer Schulzer (IRCP Visiting Researcher) “Inoue Enryō’s Ideas about a Comparison between Mahayana
Philosophy and the Philosophy of Spinoza”

Ichikawa Yoshinori (the Library of the Maison du Japon at the Cité Internationale Universitaire de Paris)
“Inoue Enryō’s overseas tours and Japanese emigration: one of his aspects, popular educator”

Eddy Dufourmont (the University of Bordeaux) “One aspect of Inoue Enryō and his time. Nakae Chōmin,
Buddhism and European philosophy”

Frédéric Girard (l’École française d’Extrême-Orient) “About the Situation of Buddhism during the Meiji
Period”

Kuroda Akinobu “Methodology of Intellectual History: from the History of the Reception of Ideas towards an
Intellectual History of Reception”

Discussion

Closing address : Miura Setsuo

2. Foundation conference of the International Association for Inoue Enryō Research (held in Sky Hall, 16th floor
Building 2, Hakusan Campus, Toyo University, on 15 Sep. 2012)

Opening address: Miura Setsuo

Commemorative lecture : Takemura Makio “On the Philosophy of Inoue Enryō.”

Symposium “The Internationality of Inoue Enryō – his Thought and Activities”

Gereon Kopf “The Modern Buddhism of Inoue Enryō ”

Michael Burtscher (University of Tokyo) “Inoue Enryō and the Term Shutai: Notes on a Keyword of
Modern Japanese Thought”

Wang Qing (CASS Institute of Philosophy) "Comparative Research on the Religious Thought of Cai Yuanpei and Inoue Enryō"

Rainer Schulzer "Crossroads of World Philosophy: Theoretical and Practical Philosophy in Inoue Enryō"

Miura Setsuo "Inoue Enryō's Journeys around the World"

Discussion

Closing address : Murakami Katsuzo

[Issue]

1. *International Journal of Inoue Enryō Research*

Contents

Takemura Makio "For launch"

Report of the Study Meeting in France

Miura Setsuo (Professor of Toyo University) "The Life of Inoue Enryō"

Takemura Makio (President of Toyo University) "About Inoue Enryō's Philosophy"

Rainer Schulzer (IRCP Visiting Researcher) "Inoue Enryō's Ideas about a Comparison between Mahayana Philosophy and the Philosophy of Spinoza"

Ichikawa Yoshinori (librarian at the Library of the Maison du Japon at the Cité Internationale Universitaire de Paris) "Inoue Enryō's overseas tours and Japanese emigration: one of his aspects, popular educator"

Eddy Dufourmont (Associate Professor at the University of Bordeaux) "One aspect of Inoue Enryō and his time. Nakae Chōmin, Buddhism and European philosophy"

Frédéric Girard (Professor at l'École française d'Extrême-Orient) "About the Situation of Buddhism during the Meiji Period"

Kuroda Akinobu (Associate Professor at the Cergy-Pontoise University) "Methodology of Intellectual History: from the History of the Reception of Ideas towards an Intellectual History of Reception"

Report of the Foundation conference of the International Association for Inoue Enryō Research

Takemura Makio "On the Philosophy of Inoue Enryō."

Gereon Kopf "The "Modern Buddhism" of Inoue Enryō"

Michael Burtscher "Inoue Enryō and the Term *Shutai* : Notes on a Keyword of Modern Japanese Thought"

Wang Qing "Comparative Research on the Religious Thought of Cai Yuanpei and Inoue Enryō"

Rainer Schulzer "Crossroads of World Philosophy: Theoretical and Practical Philosophy in Inoue Enryō"

Miura Setsuo "Inoue Enryō's Journeys around the World"

Discussion

Publication of research papers and other related academic activities

Books

Watanabe, Shougo, *Read the Heart Sutra through Pictures: A cultural Research of the Heart Sutra*, Nomburu-sha, May, 2012, pp.1-249.

Sagara, Tsutomu, co ed., *Questions for Science and Technology: Third Collection of Essays of the Heidegger study group*, Riso-Sha, July 2012, pp. 1-277.

Horiuchi, Toshio, "The Thought of the Middle-Period Yogācāra" (*Series Daijō Bukkyō: Yugagyo to Yuishiki*, Shunjūsha, pp.111-149, August, 2012)

- Takemura, Makio, *The Heart of Religion—from the thoughts of Dr. Kitaro Nishida and Dr. Daisetsu Suzuki*, Shunjyusha, October 2012, pp. 1-259.
- Murakami, Katsuzo, *Genèse de la métaphysique de Descartes*, 2ème edition, Kodansha Gakujyutu-bunko, October 2012, pp. 1-383.
- Murakami, Katsuzo, “Comment a-t-on confronté Leibniz avec Descartes ?” (*Les Études leibniziennes*, Hosei University Press, pp. 184-195, October 2012)
- Murakami, Katsuzo, “Métaphysique et la transcendance” (*La possibilité de la métaphysique : Philosophie de Makoto YAMAMOTO*, Kousakusya, pp. 195-203, October 2012)
- Yamaguchi, Ichiro, *Einführung in die Phanomenologie*, Nihon Hyoronsha, Tokyo, October 2012, pp. 1-343.
- Yamaguchi, Ichiro, “Kleine Perzeption und passive Synthesis” (*Lesebuch von Leibnitz*, Kiyoshi Sakai, u.a. (Hg.), Hoseidaigaku Shuppankyoku, Tokyo, S. 284-S.301, 2012)
- 吉田公平『中國近世心學思想』研文出版、2012年10月、pp. 1-482.
- Kikuchi, Noritaka, “Le paradigme de la pensée” (Université Toyo (éd.), *Faisons la philosophie*, Éditions Taisei, pp. 44-52, nov. 2012)
- Shimizu, Takashi (co-ed.), “Collective intellect” (*Let's Carry Out Philosophy: 30 Hints for Thinking*, Taisei publishing, pp.340-347, November, 2012)
- Miura, Setsuo, *Inoue Enryō, (Booklet of History of the Toyo University, 4)*, Toyo University, November, 2012, pp. 1-48.
- Kikuchi, Noritaka, *Inoué Enryō, fondateur de l'étude fantôme*, Éditions Kadokawa-gakugei, janv. 2013, pp. 1-216.
- Kikuchi, Noritaka, *Le labyrinthe des fées: à la recherche de fantômes en Europe*, Éditions Kadokawa-gakugei, fév. 2013, pp. 1-224.
- Shimizu, Takashi, *Michel Serres : Scenery of the genesis*, Hakushui-sha, 2013.
- 小路口聡『作為哲學資源的中國思想——吉田公平教授退休記念論集』共編著、研文出版、2013年3月。

Research papers

- 伊吹敦「南宋・金の衰亡與禪（下之下）要説・中國禪思想史 33」（『禪文化』224号、pp.142-150、2012年4月）
- Shinobu, Yamaguchi, “Hinduism of West India” (*Asakura world geography lecture 4*, eds., by Musashi Tachikawa, Yoshio Sugimoto, and Masamichi Umezu, Asakura Publishing, pp. 315-322, June, 2012)
- 伊吹敦「蒙古統治下の中國與禪（上）要説・中國禪思想史 34」（『禪文化』225号、pp.64-72、2012年7月）
- Kikuchi, Noritaka, “La magie du Dieu exécutée par les chrétiens japonais, I” (*Kwai*, XXXVI, Librairie Kadokawa, pp.154-158, juil. 2012)
- Hashimoto, Taigen, “Kabir's doha: its History and Concepts” (Nagasaki, Hiroko ed., *Indian and Persian Prosody and Recitation*, Delhi: Saujanya Publications, pp.164-172, July 2012)
- Watanabe, Shougo, “The Formation of the *Prajnaparamita Sutras*: Around the Development of Wisdom” (*What is the scripture? (II), Formation of the Buddhist scripture, and its deployment and acceptance*, ed., by The Nippon Buddhist Research Association, Heirakuji Shoten, pp.29- 62, July, 2012)
- 野間信幸著、高恵玲譯、呉佩珍導讀「張文環與《風月報》」（『中心到辺陲的重軌與分軌——日本帝国與臺灣文學、文化研究』収、国立臺灣大學出版中心、2012年8月）
- Tonaki, Yotetsu, « Éthique et politique chez Emmanuel Levinas. Un dialogue avec Platon et “une autre arché” » (*Recherches sur l'histoire de la pensée sociale*, no. 36, pp. 108-126, septembre 2012)
- Miura, Setsuo, “The Thought of Inoue Enryō of his youth days” (*Annual Report of the Inoue Enryō Center*, Vol.21, pp. 51-86, September, 2012)
- 伊吹敦「蒙古統治下の中國與禪（中）要説・中國禪思想史 35」（『禪文化』226号、pp.102-110、2012年10月）
- Kikuchi, Noritaka, “La magie du Dieu exécutée par les chrétiens japonais, II” (*Kwai*, XXXVII, Librairie Kadokawa,

pp.210-214, nov. 2012)

Shimizu, Takashi, "Leibniz's De Arte combinatorial" (*Studia Leibnitiana Japonica* 2, pp.53-67, November, 2012)

Miura, Setsuo, "125-Year Tradition of the Toyo University" (*Toyo University by AERA*, Asahi Shimbun Publications, pp. 84-89, November, 2012)

Asakura, Koichi, "The problem of recognition in care" (*TOYOHOHOGAKU*, vol. 52, No. 2, HOGAKUKAI TOYO UNIVERSITY, January 2013)

Soda, Takehito, "Karl Barths Kritik an der Schweiz und seine Auseinandersetzung über den Antikommunismus – ein Ausschnitt der Aufarbeitung der Vergangenheit in der Schweiz zwischen den 40er und 50er Jahren des 20. Jahrhunderts" (*Festschrift für Professor Kazuo HOSAKA anlässlich seines siebzigjährigen Jubiläums*, Dogakusha, 2013.1)

Watanabe, Shougo, "The formation and Development of the *Prajnaparamita Sutras*" (*Wisdom, World, and Language: Mahayana Scriptures I* (second chapter), Series Mahayana Buddhism, 4th volume, Shunju-Sha, pp. 1-53, January, 2013)

伊吹敦「道塔是否精通天臺教學？」(『印度學佛教學研究』61卷2号、2013年3月)

伊吹敦「初期禪宗給豫在日本佛教的影響——以大安寺道塔爲中心——」(『東洋學論叢』66集、2013年3月)

Iwai, Shougo, "The Almsgiving of Cunda — Japanese Translation and Notes of Paṭhamasambodhi" (*Bulletin of Orientalology*, Series of Indian Philosophy XXXVIII, Bulletin of the Faculty of Letters Toyo University, No. 66, March 2013)

Ohno, Takeshi, "Le mouvement et le repos dans la théorie du corps chez Spinoza" (*Hakusan Philosophie*, vol. 47, March 2012)

Kikuchi, Noritaka, "La magie du Dieu exécutée par les chrétiens japonais, III" (*Kwai*, XXXVIII, Librairie Kadokawa, mars 2013)

Kikuchi, Noritaka, "Démonter un péché: La liturgie taoïste des défunts de l'époque des Six dynasties à nos jours" (*Études orientalistes*, L, mars 2013)

坂井多穂子「關於楊萬里『喜雨』詩」(『東洋大學中國哲學文學科紀要』第21号、2013年3月)

Sagara, Tsutomu, "Methodical meaning of Tetsujiro Inoue's "Ontology of the Phenomenal Reality"" (*Asian Studies*, vol. 50, Institute of Asian Studies, Toyo University, March, 2013)

小路口聡「在宋明心學の“現在”主義の哲學」(『作爲哲學資源の中國思想』研文出版、2013年3月)

小路口聡「關於生出天地的良知」(『東洋大學中國哲學文學科紀要』21号、2013年3月)

Shirai, Masato, "The fact of Self-Awareness and Its Development—: The Question of Self-Awareness in the Later Nishida" (*Journal of International Philosophy*, No.2, March, 2013)

Soda, Takehito, "Die "Geistige Landesverteidigung" der Schweiz in Werner Johannes Guggenheims "Bomber für Japan" " (*Bulletin des Instituts für Humanwissenschaften an der Universität Toyo*, Bd.15, 2013.3)

Soda, Takehito, "Bürgerliche Gesellschaft und Klassische Bildung – Strukturwandel der Öffentlichkeit" (*Neue Perspektive für Deutschland in der Gegenwart*, Bd.1, Bensei-Shuppan, 2013.3)

Takenaka, Kurumi, "How does the blue arise?" (Bulletin of the Graduate School, Toyo University, vol.49, March 2013)

Nagai, Shin, « IZUTSU TOSHIHIKO, M.DALISSIER » (S.NAGAI,Y.SUGIMURA (édité par), *Philosophie japonaise*, Librairie Philosophique J.Vrin, pp. 353-388, mars 2013)

Numata, Ichiro, "Transformation of prāyaścitta and the structure of the Dharma literatures" (*Journal of Indian and Buddhist studies*, 61-2, March 2013)

Numata, Ichiro, "Annotated Translation of the Eighth Chapter of Bhāruci's *Manuśāstravivarāṇa*(1)" (*Asian studies*, vol. 50, March 2013)

Numata, Ichiro, "The Concept of *Deposit* in Ancient Indian Law Books" (*Bulletin of the Faculty of Letters, Toyo*

University. *Series of Indian philosophy*, 38, March 2013)

野間信幸「張文環作品の原郷」(『東洋大學中國哲學文學科紀要』第21号、2013年3月)

Hashimoto, Taigen, "A Study of Sikhism: On the Composition of the sacred Canon" (*The Bulletin of Orientology*, Vol. 38, Mar. 2013)

播本崇史「關於明末天主教之“靈”與“理”的考察」(『東洋大學中國哲學文學科紀要』21号、2013年3月)

Horiuchi, Toshio, "Some problems in the *Lankavatarasutra*" (*Journal of Indian and Buddhist Studies*, 2013)

Horiuchi, Toshio, "An Annotated Translation of Sutra Passages 62 & 63 in Chapter 2 of the *Vyākhyāyukti*" (*Journal of International Philosophy*, No.2, March, 2013)

Miura, Setsuo, "The Life of Inoue Enryō" (*International Journal of Inoue Enryō Research*, No. 1, March, 2013)

Miura, Setsuo, "Inoue Enryō's Journeys around the World" (*International Journal of Inoue Enryō Research*, No. 1, March, 2013)

Misawa, Yuji, "On the Theory of śuddhetarasṛṣṭi in the *Ahīrbudhnyasaṃhitā*" (*Journal of Indian and Buddhist studies*, Vol. 61, March 2013)

Misawa, Yuji, "Three Aspects of Saṃsāra based on Three Guṇas in Sāṃkhya Philosophy" (*Asian Studies, Toyo University*, No. 50, March 2013)

Misawa, Yuji, "Japanese Translation and Notes of the *Lakṣmītantra* Chapter 1" (*Bulletin of the Graduate School, Toyo University*, Vol. 49, March 2013)

Yamaguchi, Shinobu, "The tale of the history of ghuśmeśvara jyotirlinga found in *Śivapurāṇa*" (*Bulletin of Orientology*, Series of Indian Philosophy XXXVIII, Bulletin of the Faculty of Letters Toyo University, No. 66, March 2013)

吉田公平「關於岡本巍の氣運論」(『東洋學研究』50号、2013年3月)

Watanabe, Shougo, "The Thought of the Three Vehicles in the *Prajñāparamita Sutra*" (*Essays in Honor of Dr. ITO Zuiei on His Seventieth Birthday*, Rissho University, March, 2013)

Watanabe, Shougo, "Satpuruṣa in the *Astasahasrikaprajñāparamita*" (*Bulletin of Orientology*, Series of Indian Philosophy XXXVIII, Bulletin of the Faculty of Letters Toyo University, No. 66, March, 2013)

Watanabe, Shougo, "The Simile of a Raft in the *Vajracchedikaprajñāparamitasutra*" (*The Annual Bulletin of the Matsugaoka Bunko*, 27, March, 2013)

Tonaki, Yotetsu, « Emmanuel Levinas et le problème de la laïcité. Place de la judéité en France contemporaine », (*Études de langue et littérature françaises* (Société Japonaise de Langue et Littérature Française), no. 102, 2013)

Translations

Yamaguchi, Ichiro / Hamauzu, Shinji. (Hg.), *Phänomenologie der Intersubjektivität*, Chikuma Shobo, Tokyo, May 2012, pp. 1-552.

野間信幸『鍾理和集』(翻譯)研文出版、2012年9月、pp. 1-95.

吉田公平、小路口聡「王畿『龍溪王先生會語』譯注 其十二」(『東洋古典學研究』第三十四号、2012年11月、pp.77~111 *早坂俊廣・鶴成久章・内田健太・本多道隆共著)

Tonaki, Yotetsu, tr., Jean-Luc Nancy, *Après Fukushima. Catastrophe, technique, démocratie*, Ibunsha, novembre 2012, pp. 1-199.

Watanabe, Shougo, "The True Intention of a scripture: A Translation of the *Heart Sutra* and *Avalokitesvara Sutra*" (*A guide to the origin and manners of Shinto-and-Buddhist-deities worship*, Shin-Jinbutsu-Orai-Sha, pp.296-306, December, 2012)

小路口聡、吉田公平「王畿『龍溪王先生會語』訳注 其十三」(『白山中國學』通巻19号、2013年1月、pp.1~30 *早坂俊廣・鶴成久章・内田健太・本多道隆共著)

Tonaki, Yotetsu, tr., Etienne Tassin, « La condition humaine au temps de la globalisation », (*Journal de philosophie*

internationale, no. 2, mars 2013)

Tonaki, Yotetsu, tr., Etienne Tassin, « Douze remarques pour une philosophie politique des crises écologiques » (*Journal de philosophie internationale*, supplément: « Philosophie après Fukushima », mars 2013)

Horiuchi, Toshio tr., Kenneth Tanaka, “The Penetration of Buddhism in America: Its significance and Reality” (*Journal of International Philosophy*, No.2, March, 2013)

Horiuchi, Toshio, tr., “Spirituality and Happiness” (*Journal of International Philosophy*, No.2, March, 2013)

Horiuchi, Toshio, tr., “IHo drug tradition of Bhutan” (*Journal of International Philosophy*, No.2, March, 2013)

Misawa, Yuji, tr., Jayandra Soni, “Philosophical Justification of Non-Violence in Jainism” (*Journal of International Philosophy*, No. 2, March, 2013)

Literary Reviews and Others

Soda, Takehito, “Artikel “Euthanasie” ” (*Lexikon für Vergleichende Erziehungswissenschaft*, Toshindo, S.380, 2012. 6.)

Watanabe, Shougo, “The bodhisattva Avalokitesvara and Emptiness seen from the *Heart Sutra*” (*Bukkyo Bunka*, 158, pp.13–19, Tokyo international Buddhism school, August, 2012)

野間信幸「回顧第14回學術大會——第4分科會報告」(『日本臺灣學會新聞通信』第23号、p4、2012年10月)

Soda, Takehito, “Über die Behandlung der religiösen Elemente im Unterricht “Deutsch als Fremdsprache” ”, (*Bulletin der Wirtschaftswissenschaftlichen Fakultät an der Universität Toyo*, Bd.38, Heft 2, 2013.3)

Tonaki, Yotetsu, « Günther Anders en France » (*Journal de philosophie internationale*, no. 2, mars 2013)

Research Activities

Presentations at Conferences and Symposiums

伊吹敦「初期禪宗給豫日本佛教的影響——以大安寺道瑤爲中心——」(2012年5月4日、玄奘大學語文教學暨文化
交流國際學術研討會、玄奘大學、臺灣・新竹)

Horiuchi, Toshio, “The Proof of the Authenticity of the Mahāyāna as Delineated in Vasubandhu's *Vyākhyāyukti*” (ICES57, Symposium V, 25th May, 2012)

野間信幸 第4分科会(文学)座長(日本臺灣學會第14回學術大會、一橋大學、5月26日)

Tonaki, Yotetsu, « Emmanuel Levinas et le problème de la laïcité. La place de la judéité en France contemporaine » (Société Japonaise de Langue et Littérature Françaises, Université de Tokyo, juin 2012)

伊吹敦「禪宗の成立與佛性觀の變貌」(第1回韓中日國際佛教學術大會、Ferrum 大廳、韓國・首爾、2012年6月23日)

伊吹敦「道瑤是否精通天臺教學？」(日本印度學佛教學會第63回學術大會、鶴見大學、2012年6月30日)

Numata, Ichiro, “Transformation of prāyaścitta and the structure of the Dharma literatures” (Annual Meeting of Japanese Association of the Inidan and Buddhist Studies at Tsurumi Univ., 2012, 6.30)

Horiuchi, Toshio, “Some problems in the *Lankavataraśūtra*” (The Japanese Association of Indian and Buddhist Studies, Tsurumi University, 30th June, 2012)

Misawa, Yuji, “The Theory of Śuddhetaraśṛṣṭi in the *Ahīrbudhnyasamhitā* and the Sāṃkhya Philosophy” (The 63rd Annual Academic Conference of the Japanese Association of Indian and Buddhist Studies, Tsurumi University, June 30, 2012)

Soda, Takehito, “Über die Literatur der Geistigen Landesverteidigung – W.J. Guggenheims) Bomber für Japan (” (Japanische Gesellschaft für Schweizerliteratur, Im Surugadai-Campus der Meiji-Universität, 28. Juli 2012)

播本崇史「明末天主教與本體論」(東洋學研究所発表例会、東洋大學、2012年12月22日)

Ohno, Takeshi, “Miracle comme l'ignorance dans Spinoza” (Association Japonaise d'Études Religieuses, Université

Kogakukan, 8 Sept. 2012)

Iwai, Shougo, “Saddhā of the Bodhisattva” (82nd Conference of the Nippon Buddhist Research Association, at Hanazono University, on September 14, 2012)

Nagai, Shin, “Silence du Nom divin et le « dire »--Phénoménologie du « mouvement »” (Colloque à l’université Jyochi, le 28 octobre 2012)

伊吹敦「日本古文獻所見中國早期禪宗——以大安寺道璿撰《集注梵網經》爲中心」(第3屆世界漢學大會、人民大學、北京・中國、2012年11月4日)

Ohno, Takeshi, “La théorie de Distinction dans *Pensées Metaphysiques* de Spinoza” (La Société Japonaise de Philosophie Médiévale, Université Bunkyo, 10 Nov. 2012)

Nagai, Shin, “Science de Yokai (Yokaigaku) chez Enryou Inoué” (« Le monde de W.B Yeats et Enryou Inoué », Colloque à l’université Toyo, le 18 novembre 2012)

Soda, Takehito, “Deutsch als Fremdsprache” (Symposium im Jahrgang 2012 “Verständnis fremder Kulturen und Unterricht der Fremdsprachen – unter dem Gesichtspunkt von Religion und denkerischer Tradition”: Über die Behandlung der religiösen Elemente im Unterricht, Im 1. Hakusan-Campus der Toyo-Universität, 15. Dezember 2012)

Tonaki, Yotetsu, « Quelques réflexions sur la philosophie d’après Fukushima » (Séminaire du Centre de Sociologie des Pratiques et des Représentations Politiques, Université Paris Diderot, le 14 février 2013)

Tonaki, Yotetsu, « La banalité de la catastrophe » (Workshop des jeunes chercheurs de Contemporary Philosophy in the Age of Globalization, « Autour de la traduction japonaise de Jean-Luc Nancy, *Après Fukushima* », Université de Tokyo, le 23 février 2013)

Iwai, Shougo, “〈The Moral Sense related All things in the Universe〉 of Enryo” (Symposium “Enryo and Kumagusu: Eco-Philosophy in modern Japan”? (Presents TIEPh: with the Support of International Association for Inoue Enryo Research), Sky Hall, February 24, 2013)

Takenaka, Kurumi, “On Hume’s missing shade of blue” (37th Study Meeting of the Japanese Society for the British Philosophy, Tohoku University, 26 March 2013)

Other Study Meetings

Misawa, Yuji, “The Aspect of Saṃsāra in Sāṃkhya Philosophy: Descent into Animal Realm or Hell by Tamas”, (meeting for presentation of research papers, Institute of Oriental Studies, Toyo University, Toyo University, July 7, 2012)

播本崇史「關於明末天主教的“靈”」(白山中國學會第3回發表大會、東洋大學、2012年7月28日)

吉田公平「關於西村茂樹的《心學講義》」(日本哲學史論壇、京都大學、2012年12月15日)

Sagara, Tsutomu, “Philosophical consideration of “acceptance of death”” (meeting for presentation of research papers, Institute of Oriental Studies, Toyo University, January 12, 2013)

Research Activity

野間信幸 高雄美濃・内門、嘉義出水坑 (2012年9月5日～9月11日)

Lectures

Watanabe, Shougo, “Read the *Heart Sutra*” (the workshop of NPO Kawasaki citizen academy, at Kawasaki lifelong learning plaza: Musashikosugi, April 9, 2012 up to July 23, 12 times)

Takemura, Makio, “Dr. Inoue Enryo’s Philosophy and Religion” (The Industry Club of Japan, May 9, 2012)

Watanabe, Shougo, “On Mahayana Buddhism” (Tokyo international Buddhism school, Hongo: Young Buddhist Association of The University of Tokyo building, June 2, 2012)

- Takemura, Makio, "On the Personality and Philosophy of Dr. Inoue Enryo, the Founder of TOYO University" (TOYO University, June 10, 2012)
- Watanabe, Shougo, "Ethics of Vimalakirti" (*Etics of Indian culture and Buddhism: Invitation to oriental thoughts*, The Toyo University extension lecture, the Toyo University Hakusan campus, June 23, 2012)
- Takemura, Makio, "On the Personality and Philosophy of Dr. Inoue Enryo, the Founder of TOYO University" (Nagoya, July 8, 2012)
- Watanabe, Shougo, "Why Inoue Enryo now?" (Nagasaki-ken Isahaya-shi: Toyo University alumni association Nagasaki branch, July 8, 2012)
- 小路口聡「關於生出天地的良知」(白山中國學會第3回大會、基調講演、東洋大學、2012年7月28日)
- Takemura, Makio, "On the Personality and Philosophy of Dr. Inoue Enryo, the Founder of TOYO University" (Fukuoka, August 4, 2012)
- Takemura, Makio, "On the Personality and Philosophy of Dr. Inoue Enryo, the Founder of TOYO University" (Sendai, September 1, 2012)
- Takemura, Makio, "On the Personality and Philosophy of Dr. Inoue Enryo" (Ushiku-city, September 9, 2012)
- Takemura, Makio, "On the Personality and Philosophy of Dr. Inoue Enryo" (Ushiku High-School affiliated with TOYO University, October 13, 2012)
- Watanabe, Shougo, "The thought of the Red Cross and compassion in Buddhism" (The Japanese Red Cross Akita College of Nursing: Akita-shi, November 13, 2012)
- Nagai, Shin, "Qu'est-ce que le soufisme ?" (Conférence introductive au « Derviche Tournoiement », le 29 novembre 2012)
- Watanabe, Shougo, "Read the *Heart Sutra* through pictures: The southern-part pictorial-symbol culture of Edo period" (Obaku study meeting, the Obaku sect Toun-ji: Ikebukuro, Toshima-ku, Tokyo-to, November 29, 2012)
- Kikuchi, Noritaka, "Kyoto, la capitale de sortilège: Le culture que le taoïsme produisait au Japon" (La LXI^e conférence faite par la Société du Chemin de fer de Tokai, le 5 déc. 2012)
- Miyamoto, Hisayoshi, "The View of the World and Life in Hinduism" (Fuchu Public Lecture Series, The Fuchu Municipal Lifelong Study Center, December 11, 2012)

執筆者一覧（五十音順）

石井 砂母亜	ルーテル学院大学非常勤講師
石田 安実	横浜市立大学非常勤講師
伊東 多佳子	富山大学大学准教授
岡田 光弘	慶應義塾大学文学部教授
黒田 昭信	セルギーポントワーズ大学准教授
ケネス・田中	武蔵野大学教授
呉 震	復旦大学哲学院教授
小坂 国継	日本大学経済学部教授
澤田 哲生	日本学術振興会特別研究員
白井 雅人	東洋大学国際哲学研究センター研究助手
渡名喜 庸哲	東洋大学国際哲学研究センター研究助手
廣瀬 直記	復旦大學哲学学院高級進修生
堀内 俊郎	東洋大学国際哲学研究センター研究助手
三澤 祐嗣	東洋大学大学院文学研究科仏教学専攻博士後期課程
宮本 久義	東洋大学文学研究科教授
村上 勝三	東洋大学文学研究科教授
矢内 義顕	早稲田大学商学学術院教授
山口 一郎	東洋大学文学研究科教授
吉田 公平	東洋大学文学研究科教授
コプフ、ゲレオン	ルーター大学教授
シュテンガー、ゲオルグ	ウィーン大学教授
ソーニー、ジャヤンドラ	インスブルック大学講師
タッサン、エティンヌ	パリ第七大学教授
ドルジ、ゲンボ	タシチョ・ゾン（ブータン仏教総本山の寺院）
ブノワ、ジョスラン	パリ第一大学教授

国際哲学研究 2号

2013年3月29日発行

編集 東洋大学国際哲学研究センター編集委員会

（吉田公平（編集委員長）、大野岳史、菊地章太）

発行者 東洋大学国際哲学研究センター（代表 センター長 村上勝三）

〒112-8606 東京都文京区白山5-28-20 東洋大学 6号館4階60452室

電話・FAX：03-3945-4209

E-mail：ircp@toyo.jp

URL：http://www.toyo.ac.jp/rc/ircp/

印刷所 蔦友印刷株式会社

* 本書は、私立大学戦略的研究基盤形成支援事業の一環として刊行されました。